

地域生涯学習要求の存在構造（その2）

—香川県観音寺市を事例として—

片岡弘勝

はじめに

I 調査の概要

II 暮らしの様子と生きがい、不安および希望する将来の地域像

III 学習・文化活動・スポーツの実態

IV 学習・文化活動・スポーツへの要求

まとめ

資料

1 アンケート調査票と単純集計

2 補足集計表

はじめに

いわゆる「生涯学習社会」のあり方が追求されるようになって以来、全国各地において生涯学習計画あるいは同プログラムが作成され、昨今ではそれら個々の内実が吟味されるようになってきている。その吟味の際、基本的視点の一つは生涯学習計画・プログラムが地域住民の学習要求にどの程度まで対応しているのか、という点におかれる。地域生涯学習においては、学習の主人公（学習主体）が自らの生活要求と学習要求を仲間と共に自らの力でとらえ、学習を自ら方向づけていく筋道が重視されるからである。こうした見地に立つ場合、住民のいづく生きがいや悩み、生活上あるいは職業上の課題、また地域社会の課題をどの程度まで深くとらえるか、という学習要求に対する認識が、生涯学習計画・プログラムの有効性を大きく左右することになる。したがって、生涯学習計画・プログラムを企画・立案する上では、地域住民の生涯学習要求を深くとらえることが最も基本的な前提条件となる。

ところが、広く一般に用いられている生涯学習要求調査の方法では、個別の学習要求のみをとりあげるに止まり、これらの要求が生まれる住民の生活と労働に関わる要求および地域現実との本質的関連を積極的に問う例がきわめて少ない。管見の限り、この関連を全く問わないのではなく、調査の末尾で消極的にとりあげる例が大多数であると考えられる。この手法では、都市部で消費生活を中心にして生活するいわゆる「市民層」を暗黙の前提にしていながらも、学習要求の理解・把握がきわめて抽象的、一般的にならざるをえない場合が少なくない。

とはいえ、住民個人とその援助者（住民相互の関係、あるいは関係する専門職員）が住民の学習要求を理解するためには、実に息の長いとりくみが必要となることは、これまでの社会教育実践史および成人の学習活動史が示している。こうした学習過程では、地域における人の暮らし方とその展望を見通す認識が問われ、学習主体とその援助者は生活課題とその背景にある歴史的・構造的な問題状況およびこれを解決する方法と照らし合わせた学習要求を明らかにし、学習課題を設定していくことが求められているのである。

本稿は、地域生涯学習に関する以上のような観点と問題関心に立ち、学習要求を理解するためには年月を要する重層的な実践と研究が必要であることを十分に認識しつつも、まず基礎作業として事例に即したアンケート票調査により、地域住民の生涯学習要求を考察するものである。なお、研究対象の性質上、大学に対する生涯学習要求のみを直接とりだして分析するのではなく、住民にとって身近な学習機会を含めた生涯学習要求全般をとりあげ、その中から内容に即して大学に期待される役割を解明する方法がより有効性があるため、本稿では後者の方法を採用する。

調査事例としては、香川県内でも香川大学生涯学習教育研究センターから遠い距離にあつて容易には同センターに通うことができないため、住民の学習要求を把握することが困難であつた東讃、西讃および小豆の各地域の中から選んで始めることにした。こうして昨年度は東讃の大川郡8町の中から長尾・大内両町を事例として選び、アンケート票調査を行った。その結果は単純集計と年齢層毎の集計を元にとりあえず拙稿「地域住民の生涯学習要求の構造と特質—香川県長尾・大内両町の概況—」(香川大学生涯学習教育研究センター『大学に対する地域住民の生涯学習要求に関する調査研究』1995年3月)にまとめ、更に職業毎の集計および設問間のクロス集計の結果を加えて分析したものを拙稿「地域生涯学習要求の存在構造—香川県長尾・大内両町を事例として—」(『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』創刊号、1996年3月)としてまとめた。

東讃地域調査では、農業中心地域と工業中心地域を有為に選んだため、1995年度には西讃地域から商業に特色のある地域の一つである観音寺市を有為に選ぶことにした。この地域選定では、東讃地域調査の際と同様に主に大藪和雄が国勢調査特化係数、事業所統計特化係数および統計資料をもとに香川県内市町の比較により同市町の特徴を明らかにした研究(大藪和雄「香川県における市町の特徴」『香川大学経済論叢』第66巻第3号、香川大学経済学会発行、1993年12月、271-287頁)に依拠した。この大藪論文によれば、観音寺市は第二次産業と第一次産業が相対的に多い自治体のグループに属す一方、卸小売特化係数でみた場合、高松市、丸亀市、琴平町と同様に商業中心地域に属す。また、香川県全体と比較して年少人口と老年人口の割合が高く、生産年齢人口(15歳~64歳)の割合が少ない。人口は、約4万5千人である。

なお本アンケート票調査は、前述したような地域生涯学習要求を深くとらえるための基礎作業の一環であるため、アンケート票は東讃地域調査と同一のものを用いた。観音寺市調査は東讃地域調査の一年後に実施したものであるが、両調査データは基本的には比較可能であると考えられる。これらの地域データ間の異同分析を通して各地域の特徴あるいは両地域の共通性と一般性をとり出す視点を得るために、本稿では必要に応じて東讃地域の当該データ(以下、東讃データという)と対照させることにする。

I 調査の概要

1 調査の設計、項目

前述のような問題意識と目的をもって以下のような調査設計および調査項目により、本調査を実施した。

(1) 調査の設計

- | | |
|---------|--|
| ① 調査地域 | 香川県観音寺市 |
| ② 調査対象者 | 同市に在住する20歳以上の個人 |
| ③ 母集団 | 35,336(ただし、1995年10月1日現在のもの) |
| ④ 標本数 | 1,413 |
| ⑤ 標本抽出 | 西讃地域(観音寺市および三豊郡)のうち前述の理由から観音寺市を有為に選び、母集団の1/25を単純無作為に抽出 |

- ⑥ 調査の種類 アンケート票調査
- ⑦ 調査方法 郵送による（調査票を郵送して配布、記入後郵送により回収）
- ⑧ 調査期間 1995年10月～12月
- ⑨ 調査票 後掲（末尾の資料）

(2) 調査項目

- ① 調査対象者の属性：4項目
居住地区、職業、年齢、性別（問1）
- ② 暮らしの様子と生きがい、不安および希望する将来の地域像について（7項目）
 - ・ 自由に使える時間の実態（問2：A. 平日、B. 休日）
 - ・ 自由時間の過ごし方の実態（問3：A. 平日、B. 休日）
 - ・ 暮らしのなかの生きがい（問4）
 - ・ 暮らしのなかの不安（問5）
 - ・ 希望する将来の地域像（問6）
- ③ 学習・文化活動・スポーツの実態（3項目）
 - ・ 学習・文化活動・スポーツへのとりくみの有無（問7）
 - ・ とりくんでいる学習・文化活動・スポーツの内容と場所・機関（問8）
 - ・ 学習・文化活動・スポーツにとりくんでいない人の意識（問9）
- ④ 学習・文化活動・スポーツへの要求（2項目）
 - ・ どのような学習・文化活動・スポーツにとりくみたいか（問10）
 - ・ どのような時間帯を望むか（問11）

2 回収結果

回収に際して、調査への協力要請を再度行った。有効回収は551票で、回収率は39.0%であった。市全体および市内各地区別の回収結果は各々表I-1、表I-2に示すとおりである。

表I-1 回収結果（市全体）

母集団	標本数	有効回収数	回収率
35,336	1,413	551	39.0%

*回収率は小数点以下第2位を四捨五入

表I-2 地区別回収結果

	観音寺	高室	常磐	柞田	木之郷	豊田	粟井	一ノ谷	伊吹
標本数	474	130	193	230	36	128	69	114	39
有効回収数	203	57	68	87	12	45	27	44	8
回収率	42.8	43.8	35.2	37.8	33.3	35.2	39.1	38.6	20.5

*回収率は小数点以下第2位を四捨五入

3 回答者の属性

問1では回答者の居住する地区、職業、年齢、性別の各項目をたずねた。ここではこれらの項目についてみることにする。

なお、本稿で示す以下の表（末尾の補足集計表を含む）においては、とくに示さない限り、上段に実数（単位：人）を示し、下段にその比率（%）を示した。比率（%）はとくにことわらない限り、有効回答数551に対する比率であり、また年齢層毎に示す比率（%）は各年齢層毎の有効回答数に対する比率であ

り、性別毎に示す比率(%)は各性別毎の有効回答数に対する比率である。さらに各職業毎に示す比率(%)も各職業毎の有効回答数に対する比率である。したがって以下、年齢層毎、性別毎および職業毎の比率に言及する場合は各々当該年齢層、当該性別および当該職業内における比率である。すべて小数点以下第2の位を四捨五入した。また以下の図(グラフ)においてはすべて比率を示した。

(1) 年齢と居住地区、性別

まず、回答者の年齢と居住地区をまとめると表I-3のようになる。

表I-3 回答者の年齢と居住地区

	観音寺	高室	常磐	柞田	木之郷	豊田	粟井	一ノ谷	伊吹	計
20歳代	23 46.0	5 10.0	7 14.0	4 8.0	1 2.0	5 10.0	2 4.0	2 4.0	1 2.0	50 100.0
30歳代	29 36.3	10 12.5	11 13.8	13 16.3	1 1.3	5 6.3	3 3.8	8 10.0	0 0.0	8.0 100.0
40歳代	45 34.4	12 9.2	20 15.3	21 16.0	4 3.1	10 7.6	8 6.1	9 6.9	2 1.5	131 100.0
50歳代	35 32.1	10 9.2	13 11.9	22 20.2	2 1.8	8 7.3	6 5.5	11 10.1	2 1.8	109 100.0
60歳以上	71 39.7	19 10.6	17 9.5	26 14.5	4 2.2	17 9.5	8 4.5	14 7.8	3 1.7	179 100.0
年齢無記入	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
計	203 36.8	57 10.3	68 12.3	87 15.8	12 2.2	45 8.2	27 4.9	44 8.0	8 1.5	551 100.0

次に市全体の回答者の年齢と性別の構成をまとめると、各々表I-4のようになり、これらのうち年齢構成および性別構成をグラフにしたものが、各々図I-1、図I-2である(単数回答)。

表I-4 回答者の年齢・性別構成(市全体)

	男性	女性	無記入	計
20歳代	23 46.0	26 52.0	1 2.0	50 100.0
30歳代	11.3 26 32.5	10.5 45 56.3	1.0 9 11.3	9.1 80 100.0
40歳代	12.8 41 31.3	18.2 61 46.6	8.9 29 22.1	14.5 131 100.0
50歳代	20.2 39 35.8	24.7 37 33.9	28.7 33 30.3	23.8 109 100.0
60歳以上	19.2 74 41.3	15.0 76 42.5	32.7 29 16.2	19.8 179 100.0
年齢無記入	36.5 0 0.0	30.8 2 0.8	28.7 0 0.0	32.5 2 100.0
計	0.0 203 36.8 100.0	0.8 247 44.8 100.0	0.0 101 18.3 100.0	0.4 551 100.0

*セルの上段は実数、中段は横の計に対する比率(%)、下段は縦の計に対する比率(%)。比率は小数点以下第2位を四捨五入。

地域生涯学習要求の存在構造 (その2)

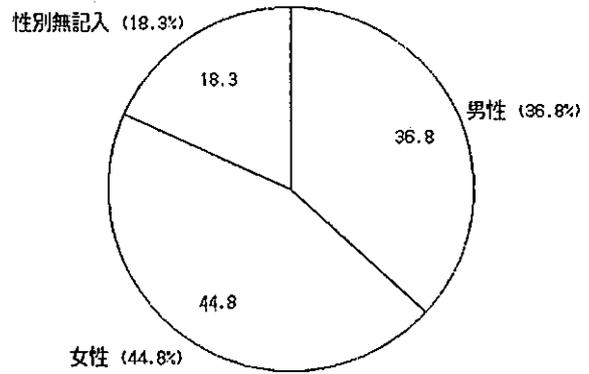
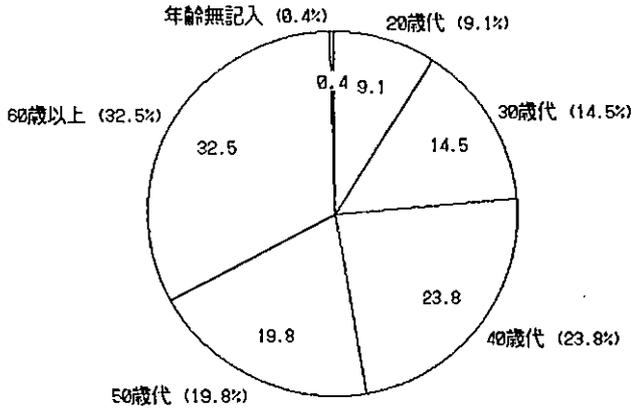


図 I - 1 年齢構成

図 I - 2 性別構成

(2) 年齢と職業

回答者全体の年齢と職業の構成をまとめると、表 I - 5 のようになり、このうち年齢全体についての職業構成のみをグラフで示すと、図 I - 3 のようになる (単数回答)。

表 I - 5 年齢と職業の構成

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計
20歳代	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	44.0	2.0	8.0	6.0	4.0	6.0	10.0	5.0	0.0	50
30歳代	4.0	1.3	0.0	7.0	1.3	3.8	1.3	31.3	2.5	12.5	2.5	7.5	16.3	1.3	4.0	0.0	80
40歳代	8.0	0.8	0.0	10.0	1.5	6.9	0.0	37.4	0.8	10.7	2.3	11.5	6.1	0.0	7.6	0.8	100.0
50歳代	6.0	0.9	0.0	11.0	3.7	9.2	2.8	31.2	4.6	11.0	0.9	1.8	11.9	0.0	5.5	0.9	109
60歳以上	47.0	0.6	0.0	18.0	3.4	2.8	1.1	3.9	0.0	0.6	0.6	2.2	42.5	0.0	3.9	2.2	179
年齢無記入	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2
計	66	5	0	48	13	29	6	137	9	41	10	29	113	6	33	6	551
	12.0	0.9	0.0	8.7	2.4	5.3	1.1	24.9	1.6	7.4	1.8	5.3	20.5	1.1	6.0	1.1	100.0

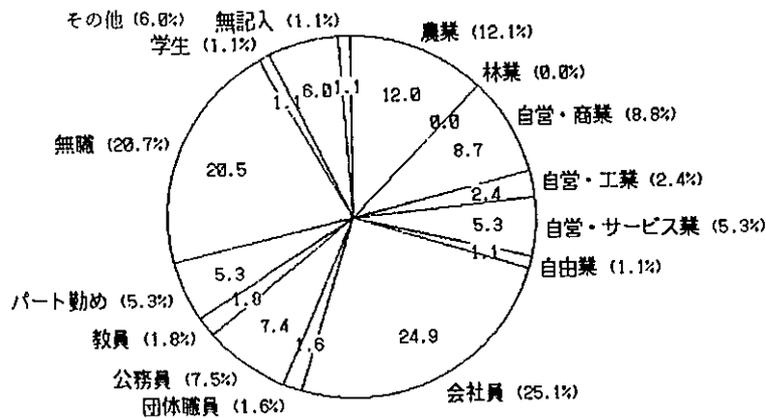


図 I - 3 職業構成 (年齢全体)

表 I - 5、図 I - 3 の注

1. 農業 2. 漁業 3. 林業 4. 自営・商業 5. 自営・工業
 6. 自営・サービス業 7. 自由業 8. 会社員 9. 団体職員 10. 公務員
 11. 教員 12. パート勤め 13. 無職 14. 学生 15. その他 16. 無記入

職業・選択肢15の「その他」の回答には、「主婦」9名、内職3名、看護婦1名、病院・医療事務員3名、僧侶1名、「アルバイト」2名等があった。

Ⅱ 暮らしの様子と生きがい、不安および希望する将来の地域像

ここでは、住民の生涯学習要求をとらえる上で前提となる暮らし方、なかでも自由時間とその過ごし方、地域における暮らしのなかでの生きがいと不安、さらには希望する将来の地域像について基本的な傾向をみることにする。

1 自由に使える時間の実態

問2でたずねた自由時間（単数回答）を平日、休日に分けて年齢層毎にまとめると、各々表Ⅱ-1A、表Ⅱ-1Bとなる。また、これらのうち、年齢全体に限りてグラフにして示すと、平日が図Ⅱ-1A、休日が図Ⅱ-1Bとなる。

表Ⅱ-1A 平日の自由時間

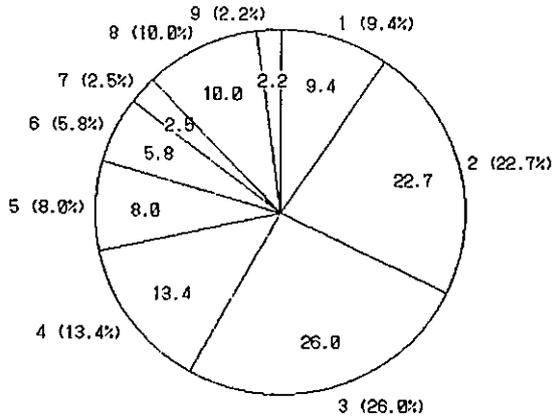
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
20歳代	5 10.0	8 16.0	6 12.0	11 22.0	6 12.0	4 8.0	3 6.0	7 14.0	0 0.0	50 100.0
30歳代	14 17.5	26 32.5	24 30.0	5 6.3	4 5.0	2 2.5	2 2.5	2 2.5	1 1.3	80 100.0
40歳代	17 13.0	33 25.2	41 31.3	17 13.0	13 9.9	4 3.1	1 0.8	4 3.1	1 0.8	131 100.0
50歳代	10 9.2	34 31.2	34 31.2	15 13.8	5 4.6	2 1.8	1 0.9	7 6.4	1 0.9	109 100.0
60歳以上	6 3.4	24 13.4	38 21.2	25 14.0	16 8.9	20 11.2	7 3.9	34 19.0	9 5.0	179 100.0
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0
計	52 9.4	125 22.7	143 26.0	74 13.4	44 8.0	32 5.8	14 2.5	55 10.0	12 2.2	551 100.0

表Ⅱ-1B 休日の自由時間

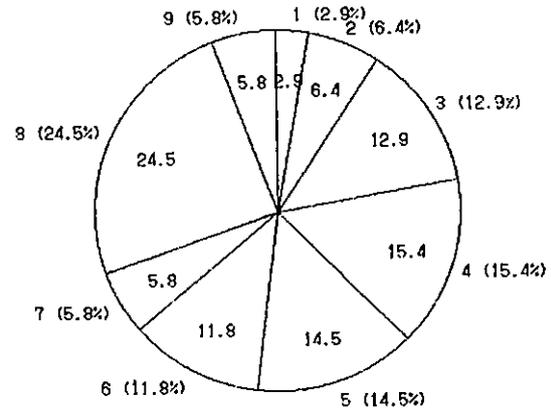
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
20歳代	2 4.0	1 2.0	3 6.0	6 12.0	3 6.0	5 10.0	4 8.0	24 48.0	2 4.0	50 100.0
30歳代	5 6.3	11 13.8	15 18.8	10 12.5	14 17.5	6 7.5	3 3.8	15 18.8	1 1.3	80 100.0
40歳代	3 2.3	9 6.9	26 19.8	19 14.5	22 16.8	18 13.7	8 6.1	24 18.3	2 1.5	131 100.0
50歳代	3 2.8	6 5.5	12 11.0	23 21.1	22 20.2	11 10.1	4 3.7	25 22.9	3 2.8	109 100.0
60歳以上	3 1.7	8 4.5	15 8.4	26 14.5	19 10.6	25 14.0	13 7.3	46 25.7	24 13.4	179 100.0
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0
計	16 2.9	35 6.4	71 12.9	85 15.4	80 14.5	65 11.8	32 5.8	135 24.5	32 5.8	551 100.0

表Ⅱ-1A、表Ⅱ-1B、図Ⅱ-1A、図Ⅱ-1Bの注

1. 1時間未満
2. 1時間以上～2時間未満
3. 2時間以上～3時間未満
4. 3時間以上～4時間未満
5. 4時間以上～5時間未満
6. 5時間以上～6時間未満
7. 6時間以上～7時間未満
8. 7時間以上
9. 無記入



図Ⅱ-1 A 平日の自由時間



図Ⅱ-1 B 休日の自由時間

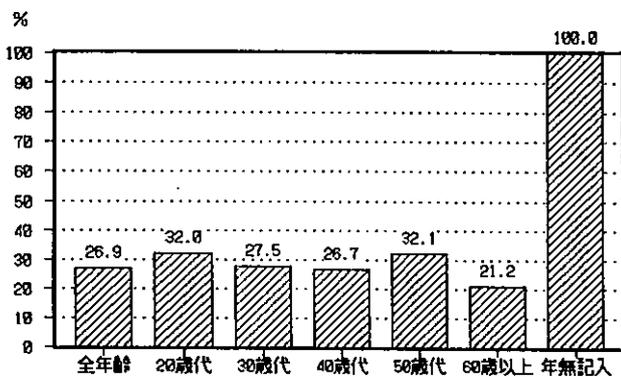
平日の場合、無職が比較的に多い60歳以上を除いた50歳代以下の年齢層では、やはり自由時間が比較的に少なくなる。とはいえ、年齢全体でみて2～3時間が26.0%、1～2時間が22.7%、3～4時間が13.4%という結果であった。休日の場合は、年齢全体でみて「7時間以上」24.5%が最高率であった。

2 自由時間の過ごし方の実態

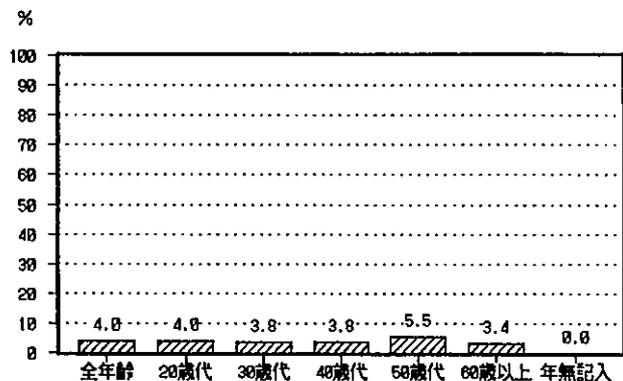
自由時間の過ごし方については、主なものを3つまでたずねた（複数回答）。単純集計は末尾の「資料」に示したが、ここでは、これらのうち主要な傾向と特質をみておくことにする。

比率が著しく高いものがテレビ・ラジオで平日77.1%、休日52.8%もあった。自由時間の多い休日には、回答者が各々の趣味、生きがい等に時間を使っている様子が見えがえる。休日の比率が最高のテレビ・ラジオに次いで多いものは、休養26.9%、「家族との団らん・子や孫の相手」24.3%、ショッピング22.0%、仲間・友人とのおつきあい17.2%、園芸・庭いじり16.7%、身の回りの整理・洗車16.2%であった。

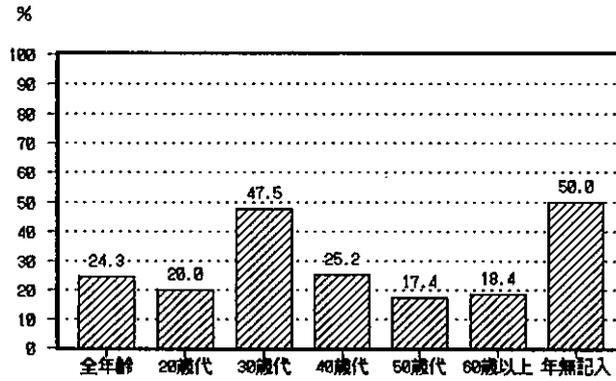
平日のみならず、休日にも疲れをいやすため休養する人の比率が休日の回答で第2位の比率で、年齢全体で26.9%であった点が注目される。これを年齢層毎にグラフに示したものが図Ⅱ-2であり、年齢層毎の比率では、50歳代と20歳代が32%台となっている。生涯学習に関わりのある「仕事や生活に役立つ知識・技能の習得」は、休日3.4%より平日4.0%の方が若干高い。この平日分をグラフにしたものが図Ⅱ-3である。これをみると年齢層毎の比率は30歳代、40歳代、60歳以上が3%台である一方、20歳代4.0%、50歳代5.5%となっている。数はわずかとはいえ50歳代、20歳代をはじめとして仕事の後あるいは合間に意欲的にこうした活動にとりくむ層が存在する。



図Ⅱ-2 自由時間の過ごし方「疲れをいやすため休養する」(休日)



図Ⅱ-3 自由時間の過ごし方「仕事や生活に役立つ知識・技能の習得」(平日)



図Ⅱ-4 自由時間の過ごし方
「家族との団らんや子・孫の相手」(休日)

休日に家族との団らんを楽しむ人を年齢層毎にグラフで示すと図Ⅱ-4のようになり、年齢層毎の比率は30歳代の47.5%を最高にして、40歳代、20歳代が20%台となっている。

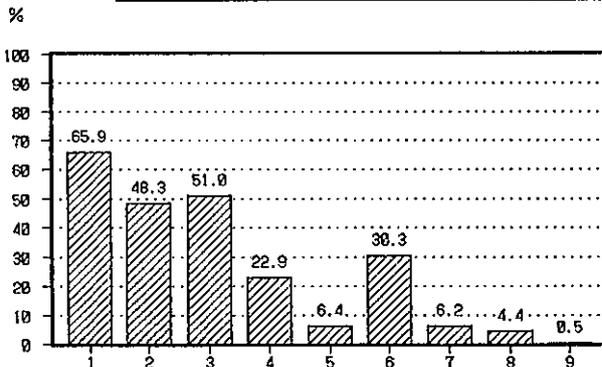
3 暮らしのなかの生きがい

自然環境に恵まれて気ごろの知れた人のなかで暮らす指向

問4でたずねた「暮らしのなかの生きがい」の回答状況(複数回答)をまとめたものが表Ⅱ-2であり、このうち年齢全体に限って比率をグラフに示したものが図Ⅱ-5である。趣味30.3%、仕事22.9%という比率の結果がみられるが、選択肢1「住み慣れたところで気ごろの知れた人々のなかで暮らす」65.9%、選択肢3「自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らす」51.0%、選択肢2「子や孫らの家族といっしょに暮らす」48.3%が一層高いことは、東讃データと全く同様である。

表Ⅱ-2 暮らしのなかの生きがい

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20歳代	29 58.0	18 36.0	19 38.0	9 18.0	4 8.0	11 22.0	6 12.0	2 4.0	0 0.0
30歳代	38 47.5	43 53.8	31 38.8	17 21.3	6 7.5	20 25.0	5 6.3	5 6.3	0 0.0
40歳代	74 56.5	51 38.9	76 58.0	37 28.2	10 7.6	47 35.9	9 6.9	7 5.3	1 0.8
50歳代	73 67.0	45 41.3	50 45.9	27 24.8	5 4.6	35 32.1	6 5.5	6 5.5	1 0.9
60歳以上	148 82.7	108 60.3	103 57.5	36 20.1	10 5.6	54 30.2	8 4.5	4 2.2	1 0.6
年齢無記入	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	363 65.9	266 48.3	281 51.0	126 22.9	35 6.4	167 30.3	34 6.2	24 4.4	3 0.5



図Ⅱ-5 暮らしのなかの生きがい
(年齢全体)

表Ⅱ-2、図Ⅱ-5の注

1. 住み慣れたところで気ごろの知れた人々のなかで暮らすこと
2. 子や孫らの家族といっしょに暮らすこと
3. 自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らすこと
4. いまの仕事にはりあいがあがる
5. 地域の年中行事(お祭り・太鼓等)を支えていくこと
6. 趣味
7. 生きがいはない
8. その他(なるべく具体的に書いてください)
9. 無記入

表Ⅱ-2、図Ⅱ-5をみると、選択肢1「住み慣れたところで気ごころの知れた人々のなかで暮らす」では、60歳以上82.7%が最高率であり、50歳代が67.0%である。また、20歳代58.0%が第3位の高率である点が注目される。

選択肢3「自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らす」では、40歳代、60歳以上が50%台であり、最低率の20歳代でも38.0%であることから、比率に若干の高低があるとはいえ、強い要求になっているといえることができる。これを職業毎に示したものが表Ⅱ-3である。同表をみると、自由業、パート勤め、農業が60%を超える一方、漁業、教員、学生が20~30%台と比較的に低く、その他の職業は40%台~50%台となっている。またこれを性別毎にみると、男性44.8%、女性54.7%と女性の方が約10ポイント分高い。概して約半数近くの層に、こうした生活スタイルへの指向がみられるといえることができる。なお、この選択肢3への回答の比率（年齢全体）は、東讃データ58.4%よりも7ポイント低い。

選択肢7「生きがいはない」という回答の場合、年齢層毎の比率は20歳代12.0%で最高であり、他は4%台~6%台の幅であった。

以上のことから、東讃データと同様に、総じて自然環境に恵まれて気ごころの知れた人のなかで暮らす指向が強いといえることができる。

表Ⅱ-3 「自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らす」（職業）

職 業	農 業	漁 業	林 業	自 営 ・ 商 業	自 営 ・ 工 業	自 営 サ ビ ン 業	自 由 業	会 社 員	団 体 職 員	公 務 員	教 員	パ ー ト 勤 め	無 職	学 生	そ の 他	無 記 入	全 体
	40 60.6	1 20.0	0	25 52.1	7 53.8	15 51.7	4 66.7	59 43.1	5 55.6	20 48.8	3 30.0	18 62.1	60 53.1	2 33.3	17 51.5	5 83.3	281 51.0

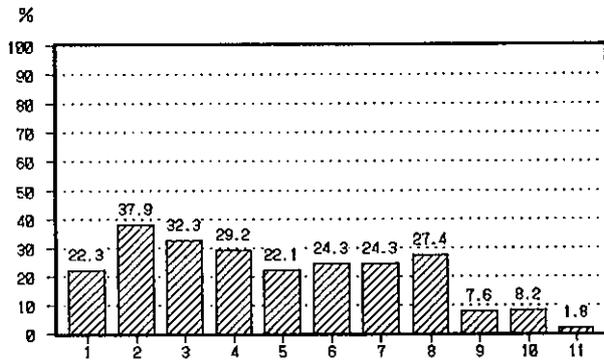
4 暮らしのなかの不安

問5でたずねた暮らしのなかの不安についての回答状況（複数回答）をまとめたものが表Ⅱ-4であり、このうち年齢全体に限って比率をグラフに示したものが図Ⅱ-6である。

表Ⅱ-4 暮らしのなかの不安

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
20歳代	9 18.0	8 16.0	15 30.0	10 20.0	11 22.0	9 18.0	23 46.0	23 46.0	3 6.0	2 4.0	0 0.0
30歳代	14 17.5	15 18.8	54 67.5	17 21.3	16 20.0	14 17.5	33 41.3	36 45.0	1 1.3	7 8.8	0 0.0
40歳代	25 19.1	45 34.4	72 55.0	41 31.3	35 26.7	35 26.7	24 18.3	41 31.3	5 3.8	7 5.3	1 0.8
50歳代	23 21.1	61 56.0	26 23.9	32 29.4	21 19.3	33 30.3	21 19.3	28 25.7	6 5.5	9 8.3	1 0.9
60歳以上	51 28.5	79 44.1	10 5.6	60 33.5	39 21.8	43 24.0	32 17.9	23 12.8	27 15.1	20 11.2	8 4.5
年齢無記入	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	123 22.3	209 37.9	178 32.3	161 29.2	122 22.1	134 24.3	134 24.3	151 27.4	42 7.6	45 8.2	10 1.8

表Ⅱ-4、図Ⅱ-6の注



1. 若い人がだんだん他の地域に移り住んで、〈むら〉や〈まち〉の人口が減っていくこと
2. 年をとって一人住まいになると、からだが不自由になったり、病気になってしまったとき、介護をしてくれる人がいるかどうか不安
3. 親が高齢になったとき、十分に介護できるかどうか不安
4. 道路や住宅地が整備されて便利になったが、これにともない山林や自然がこわされていくことが不安
5. 自然がこわされていくことによって、将来、水不足・土砂崩れなどの災いが起きないか不安
6. だんだんと、となり近所づきあいがぎすぎすしていくのではないか不安
7. 道路・商店街やレジャー施設などがなかなか便利にならない
8. 学習・文化活動・スポーツをする場が少ない
9. 何も不安はない
10. その他
11. 無記入

図Ⅱ-6 暮らしのなかの不安 (年齢全体)

全般的傾向

年齢全体では、選択肢2の自らの老後の介護に関する不安の比率が37.9%で最高率である他、選択肢3の親の老後の介護に関する不安が32.3%、選択肢4の生活の便利化に伴う山林・自然破壊の進行に関する不安29.2%が高い。また、選択肢8「学習・文化活動・スポーツをする場が少ない」ことに関する不安27.4%は、東讃データ16.8%よりも高率である。ここにいう「学習・文化活動」の意味内容について様々な受けとり方があるため即断はできないが、この点が不安あるいは不満として比較的強く出されていると推測される。さらに、選択肢6の近所づきあいの悪化に関する不安、選択肢7「道路・商店街やレジャー施設などがなかなか便利にならない」ことに対する不安は共に24.3%である。

また、自らの老後の介護に関する不安をもつ年齢層毎の比率は、50歳代56.0%が最高で、60歳以上が44.1%である。選択肢4の生活の便利化に伴う山林・自然破壊の進行に関する不安をもつ年齢層毎の比率は、60歳以上33.5%から20歳代20.0%の幅で概ね年齢層が高くなるにつれて若干高くなっている。

自然破壊に関する不安

選択肢4と選択肢5はいずれも地域の自然環境の中での暮らし方を示す一つの重要な指標になる。両選択肢のいずれかについて不安を持つ人は212名であるが、この自然破壊に関する不安を持つ層を職業別に示したものが表Ⅱ-5である。同表によれば、団体職員、自由業が50%以上であり、農業、自営・商業、自営・サービス業、公務員、無職、会社員が40%前後となっている。全体での比率38.5%は、東讃データ43.6%よりも5ポイント低い。

表Ⅱ-5 「生活の便利化に伴う山林・自然破壊の進行に対する不安」(選択肢4)
 または「自然破壊によって、将来水不足・土砂崩れ等の災いの発生が不安」
 (選択肢5) 212名(職業)

職業	農業	漁業	林業	自営・商業	自営・工業	自営業	自由業	会社員	団体職員	公務員	教員	パート勤め	無職	学生	その他	無記入	全体
	28	0	0	20	3	12	3	53	5	16	1	8	44	1	14	4	212
	42.4	0.0		41.7	23.1	41.4	50.0	38.7	55.6	39.0	10.0	27.6	38.9	16.7	42.4	66.7	38.5

「生活の不便」「学習・文化・スポーツの場が少ない」は20~30歳代が高率

一方、選択肢7の道路・商店街・レジャー施設等、生活が便利にならないことに関する不安、および選択肢8「学習・文化活動・スポーツをする場が少ない」ことに関する不安、の年齢層毎の比率は、両選択肢ともに概ね年齢層が若くなるにつれて高くなっており、20歳代、30歳代の40%台が高い。

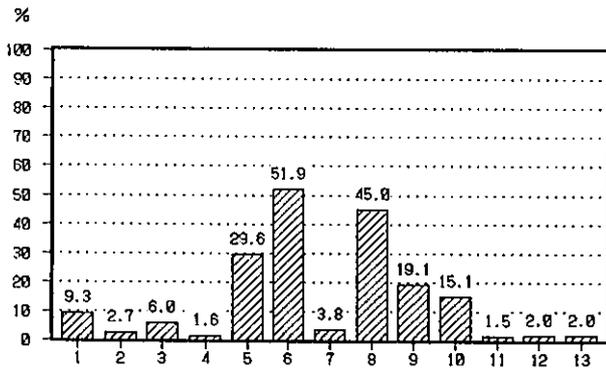
5 希望する将来の地域像

問6では希望する将来の地域像を2つまでたずねた(複数回答)。その結果をまとめたものが表Ⅱ-6であり、このうち年齢全体に限ってグラフに示したものが図Ⅱ-7である。

表Ⅱ-6 希望する将来の地域像

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
20歳代	7 14.0	1 2.0	5 10.0	3 6.0	11 22.0	24 48.0	2 4.0	16 32.0	7 14.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	1 2.0
30歳代	1 1.3	1 1.3	6 7.5	3 3.8	22 27.5	40 50.0	4 5.0	40 50.0	28 35.0	12 15.0	0 0.0	3 3.8	0 0.0
40歳代	7 5.3	3 2.3	6 4.6	1 0.8	40 30.5	73 55.7	6 4.6	66 50.4	20 15.3	25 19.1	0 0.0	2 1.5	2 1.5
50歳代	6 5.5	5 4.6	6 5.5	2 1.8	35 32.1	67 61.5	6 5.5	44 40.4	21 19.3	13 11.9	0 0.0	2 1.8	1 0.9
60歳以上	29 16.2	5 2.8	10 5.6	0 0.0	54 30.2	81 45.3	3 1.7	80 44.7	28 15.6	25 14.0	8 4.5	4 2.2	7 3.9
年齢無記入	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	51 9.3	15 2.7	33 6.0	9 1.6	163 29.6	286 51.9	21 3.8	248 45.0	105 19.1	83 15.1	8 1.5	11 2.0	11 2.0

表Ⅱ-6、図Ⅱ-7の注



図Ⅱ-7 希望する将来の地域像 (年齢全体)

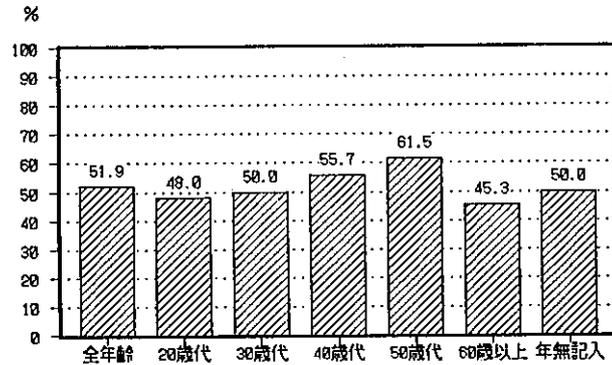
1. いまある農業・漁業・林業がしっかりした地域
2. 工業を中心とした地域
3. 商業を中心とした地域
4. リゾート地・ゴルフ場のある観光の地域
5. 農業・漁業・林業・商業・工業の調和のとれた地域
6. 緑を保存して、安心して水や野菜・山の幸・海の幸を食べられる地域
7. 住宅地を増やしてもっとにぎわいのある地域 (そのためには山林が減ってもやむをえない)
8. 福祉のゆきとどいた地域
9. わずらわしい村の古い慣習・しきたりや規制がなくなってほしい
10. 文化的行事や催しが増えてほしい。
11. いまのまが一番よい
12. その他
13. 無記入

全般的傾向

図Ⅱ-7でみるように、選択肢6の「緑を保存して、安心して水や野菜、山の幸、海の幸を食べられる地域」の51.9%および、選択肢8の「福祉のゆきとどいた地域」の45.0%の両者の比率が他に比較して著しく高い結果となった。この点は東讃データと同様である。この問6の設定に関して観音寺市データが東讃データと若干異なる点は、選択肢10「文化的行事や催しが増えてほしい」15.1%、選択肢3「商業を中心とした地域」6.0%が各々の東讃データ10.9%、2.5%より若干高いこと、一方で選択肢1「いまある農業・漁業・林業がしっかりした地域」9.3%、選択肢11「いまのまが一番よい」1.5%が各々東讃データ12.1%、5.9%よりやや低いことである。

著しく強い「緑を保存して、安心して水、野菜等を食べられる地域」への指向

選択肢6の回答状況を年齢層毎に示した図Ⅱ-8をみると、年齢層毎の比率は50歳代の61.5%が最高率であり、他の年齢層については45.3%~55.7%の幅である。東讃データと同様に、この選択肢についてはほぼすべての年齢層で関心が高い。同回答状況を職業毎に示したものが表Ⅱ-7である。これによれば、教員80.0%が著しい高率であり、また、会社員、公務員、自営・サービス業、農業、無職、自由業、学生が50%以上となっている。



図Ⅱ-8 「緑を保存して、安心して水や野菜・山の幸・海の幸を食べられる地域」を望む（年齢層）

表Ⅱ-7 選択肢6の「緑を保存して、安心して水や野菜、山の幸、海の幸を食べられる地域」（職業）

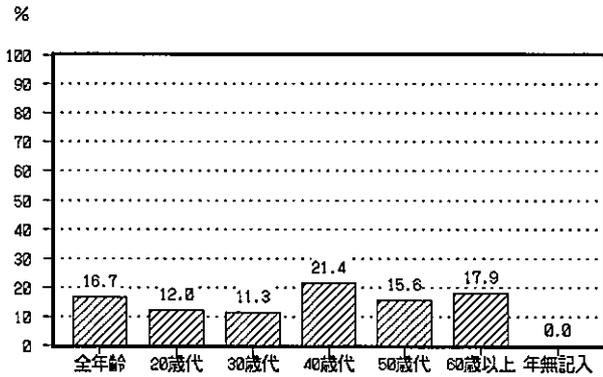
職業	農業	漁業	林業	自営・商業	自営・工業	専業主業	自由業	会社員	団体職員	公務員	教員	パート勤め	無職	学生	その他	無記入	全体
	34	1	0	22	4	15	3	77	4	23	8	11	57	3	20	4	286
	51.5	20.0		45.8	30.8	51.7	50.0	56.2	44.4	56.1	80.0	37.9	50.4	50.0	60.6	66.7	51.9

「自然環境問題関心層」は全体の16.7%

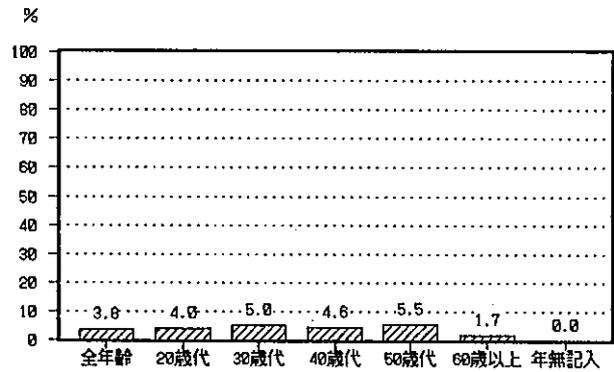
さらに、この選択肢6および、問4（生きがい）の選択肢3「自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らすこと」、かつ問5（不安）の選択肢4「道路や住宅地が整備されて便利になったが、これにともない山林や自然がこわされていくことが不安」または問5の選択肢5「自然がこわされていくことによって、将来、水不足・土砂崩れなどの災いが起きないか不安」の三者の全てに○で回答した、いわば「自然環境問題関心層」についてみてみたい。この回答者は自然環境の恵みを生きがいに持ち、現状ではその生きがいが消滅するのではないかという不安を抱き、したがって将来この生きがいが存続することを希望する層であるといえる。この層は92名であり、有効回答総数551に対して16.7%である。この回答者を年齢層毎、職業毎にみたものが各々図Ⅱ-9、表Ⅱ-8である。これらを見ると、年齢層では40歳代21.4%、60歳以上17.9%が比較的に高い。職業毎では団体職員22.2%、無職20.4%、農業19.7%、自営・商業18.8%が高率である。性別では、男性14.8%、女性19.8%である。また、東讃データでは学生が33.3%と高率であったが、観音寺市データでは学生は零であった。

表Ⅱ-8 「自然環境問題関心層」92名（職業）

職業	農業	漁業	林業	自営・商業	自営・工業	専業主業	自由業	会社員	団体職員	公務員	教員	パート勤め	無職	学生	その他	無記入	全体
	13	0	0	9	0	4	1	20	2	7	1	3	23	0	7	2	92
	19.7	0.0		18.8	0.0	13.8	16.7	14.6	22.2	17.1	10.0	10.3	20.4	0.0	21.2	33.3	16.7



図Ⅱ-9 「自然環境問題関心層」92名
(年齢層)



図Ⅱ-10 「住宅地を増やしてもっとにぎわいのある地域」を望む(年齢層)

自然破壊を伴う「宅地開発による活性化」は比較的に低率

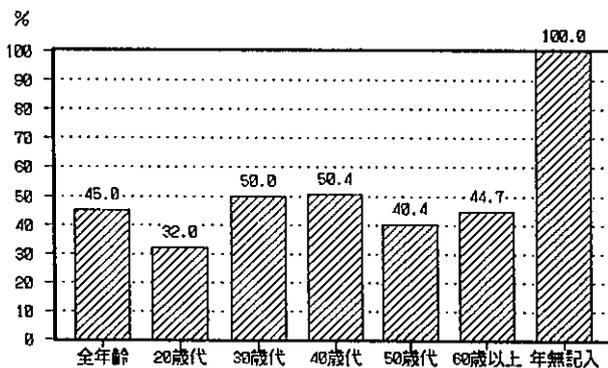
一方、この選択肢と対立する側面がある選択肢7「住宅地を増やしてもっとにぎわいのある地域（そのためには山林が減ってもやむをえない）」についての回答状況を年齢層毎にグラフで示したものが、図Ⅱ-10である。比率は年齢全体では3.8%であり、選択肢6に比べて明らかに低い。この点も東讃データと同様である。

著しく強い「福祉のゆきとどいた地域」への要求

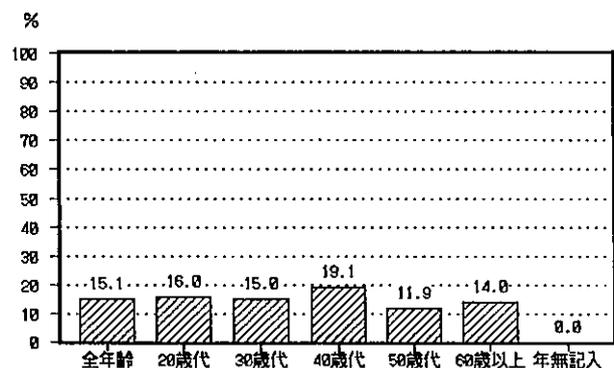
選択肢8「福祉のゆきとどいた地域」についての回答状況を年齢層毎に示すと図Ⅱ-11のようになる。年齢層毎の比率は20歳代32.0%が最低で、50歳代、60歳以上が各々40.4%、44.7%であるが、30歳代、40歳代については50%以上の比率である。福祉問題は30歳以上の人には大きな課題であるととらえられている。

「文化的企画」への要求

選択肢10「文化的行事や催しが増えてほしい」を年齢層毎の比率でみたものが、図Ⅱ-12である。40歳代が19.1%である他、11%台～16%台の幅で要求がみられる。



図Ⅱ-11 「福祉のゆきとどいた地域」を望む
(年齢層)



図Ⅱ-12 「文化的行事や催しが増えてほしい」
(年齢層)

Ⅲ 学習・文化活動・スポーツの実態

1 学習・文化活動・スポーツへのとりくみの有無

「学習・文化活動・スポーツ」へのとりくみは男女ともに34%

問7では、現在になか学習・文化活動・スポーツにとりくんでいるか否かについてたずねた（単数回答）。その結果を性別・年齢について集計すると表Ⅲ-1のようになる。同表をみると、「学習・文化活動・スポーツ」を「行っている」と回答した人の年齢層毎の比率は、29.4%～38.2%の幅であり、著しい差はみられない。性別毎にみると、「行っている」と回答した人は男性、女性共に各性毎の比率は34.0%であり、「行っていない」と回答した人は男性のうちの65.0%、女性のうちの65.2%である。このことのみから判断すると性別については大きな相違はみられない。しかし、各性別の年齢毎の比率を細かくみると、「行っている」男性の場合、30歳代46.2%と40歳代24.4%を比べると前者がやや高いのに対し、「行っている」女性の場合はこれとは逆で、30歳代26.7%と40歳代44.3%を比べると後者がやや高い。これらの数字では、30歳代と40歳代は性別で逆の結果になっている。これには労働条件、子育て等の背景があるのではないかと推測される。

表Ⅲ-1 学習・文化活動・スポーツへのとりくみの有無

	性 全 体				男 性				女 性			
	はい	いいえ	無記入	計	はい	いいえ	無記入	計	はい	いいえ	無記入	計
20 歳 代	16 32.0	34 68.0	0 0.0	50 100.0	8 34.8	15 65.2	0 0.0	23 100.0	8 30.8	18 69.2	0 0.0	26 100.0
30 歳 代	27 33.8	53 66.3	0 0.0	80 100.0	12 46.2	14 53.8	0 0.0	26 100.0	12 26.7	33 73.3	0 0.0	45 100.0
40 歳 代	50 38.2	80 61.1	1 0.8	131 100.0	10 24.4	31 75.6	0 0.0	41 100.0	27 44.3	34 55.7	0 0.0	61 100.0
50 歳 代	32 29.4	77 70.6	0 0.0	109 100.0	11 28.2	28 71.8	0 0.0	39 100.0	14 37.8	23 62.2	0 0.0	37 100.0
60歳以上	61 34.1	114 63.7	4 2.2	179 100.0	28 37.8	44 59.5	2 2.7	74 100.0	23 30.3	51 67.1	2 2.6	76 100.0
年齢無記入	0 0.0	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	2 100.0
計	186 33.8	360 65.3	5 0.9	551 100.0	69 34.0	132 65.0	2 1.0	203 100.0	84 34.0	161 65.2	2 0.8	247 100.0

* 「はい」は「行っている」、「いいえ」は「行っていない」。

** 「性全体」は性別無記入101名を含む。

2 とりくんでいる学習・文化活動・スポーツの内容と場所・機関

問7で「行っている」と回答した人に、問8ではとりくんでいる内容および場所・機関をたずねた（複数回答）。その結果は、末尾「資料」の単純集計の欄で整理したとおりである。ただし、集計の比率については、有効回答総数551に対する比率を示した。問7で「行っている」と回答した人数186に対する比率ではない。

全般的には文芸やスポーツの比率が高い

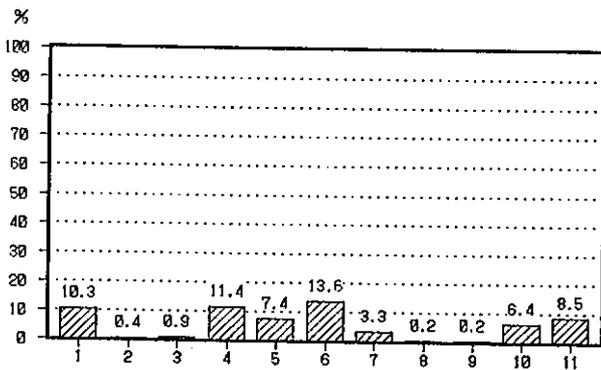
この全般的傾向をみると、各々の趣味や生きがいをもってとりくんでいる層が1人(0.2%)から18人(3.3%)の幅で存在し、文芸やスポーツの比率が高いという傾向がみられる。なかでも2%以上のものは、バレーボール（ミニソフトバレーボールを含む）3.3%、ゴルフ2.4%、書道2.2%（習字を加えると3.1%）、お花・華道2.2%である。

一方、とりくんでいる場所・機関についての回答状況をまとめると、表Ⅲ-2のようになり、このうち年齢全体に限ってグラフで示すと図Ⅲ-1のようになる。

選択肢6の「加入している団体（同好会・婦人会・老人会・青年会・ボランティアのグループなど）」の比率13.6%、選択肢4の「スポーツ施設で」11.4%、選択肢1の「公民館で」10.3%が高率である。選択肢10「一人で」6.4%も存在するが、概ね加入団体の活動としてとりくまれることが多く、しかも内容では文芸・趣味に関する内容を公民館において、スポーツをスポーツ施設において行っている人が多い。

表Ⅲ-2 学習・文化活動・スポーツを行う場所・機関

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
20歳代	2.0	0.0	0.0	18.0	2.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0	3.0
30歳代	0.0	0.0	0.0	25.0	5.0	11.3	3.8	0.0	0.0	4.0	8.0
40歳代	13.9	1.5	0.8	17.0	12.2	16.8	4.6	0.0	0.8	6.9	21.0
50歳代	8.3	0.0	0.0	9.2	5.5	15.6	2.8	0.9	0.0	3.7	3.7
60歳以上	19.0	0.0	2.2	3.9	7.8	9.5	3.4	0.0	0.0	7.3	6.1
年齢無記入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	10.3	0.4	0.9	11.4	7.4	13.6	3.3	0.2	0.2	6.4	8.5



図Ⅲ-1 学習・文化活動・スポーツを行う場所・機関（年齢全体）

表Ⅲ-2、図Ⅲ-1の注

1. 公民館で
2. 図書館（室）で
3. 働く婦人の家で
4. スポーツ施設で
5. 自宅で
6. 加入している団体（同好会・婦人会・老人会・青年会・ボランティアのグループなど）で
7. 民間のカルチャーセンターで
8. 大学開放講座で
9. 放送大学を利用して
10. 一人で
11. その他

なお、場所・機関で選択肢11「その他」に記述された主要な例は、ピアノのレッスン、木目込み人形、箏曲、スタンドグラス、ロマンドール、習字、パッチワーク、茶道、華道を民間の当該教室や個人指導の講師宅において、英会話、折り紙を通信教育で、ウィンドサーフィンを有明浜において、ジョギング、散歩、体操を公園において、バドミントン、囲碁、くみひも、習字、ヨガを勤務先内において、バンド活動を「パブを利用して」行う等というものであった。

3 学習・文化活動・スポーツにとりくんでいない人の意識—学習・文化活動・スポーツを必要としない住民層あるいは、とりくみを阻害する要因—

「関心はあるが、時間的余裕がないため」が高率

問7で、学習・文化活動・スポーツを「行っていない」と回答した人に対しては、問9でその事情や理由を2つまでたずねた（複数回答）。その結果は表Ⅲ-3のようになり、このうち年齢全体に限ってグラフで表したものが図Ⅲ-2である。

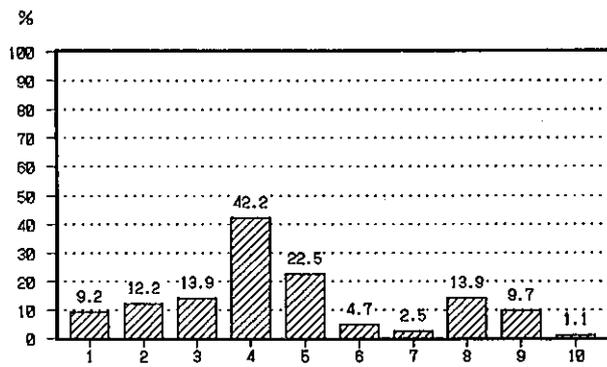
ただし、この場合のみ比率（%）は問7で「行っていない」とした回答者数360に対する比率であり、年齢層毎の比率は問7で「行っていない」とした当該年齢層の回答数に対する比率である。

表Ⅲ-3 学習・文化活動・スポーツにとりくんでいない事情・理由

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
20歳代	5.9	14.7	20.6	38.2	17.6	2.9	0.0	14.7	5.9	0.0
30歳代	0.0	3.8	18.9	49.1	15.1	11.3	11.3	15.1	7.5	0.0
40歳代	3.8	5.0	8.8	58.8	31.3	3.8	2.5	10.0	6.3	0.0
50歳代	5.2	13.0	16.9	39.0	27.3	5.2	0.0	11.7	5.2	1.3
60歳以上	21.1	19.3	11.4	31.6	18.1	2.6	0.9	17.5	17.5	1.8
年齢無記入	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
計	9.2	12.2	13.9	42.2	22.5	4.7	2.5	13.9	9.7	1.1

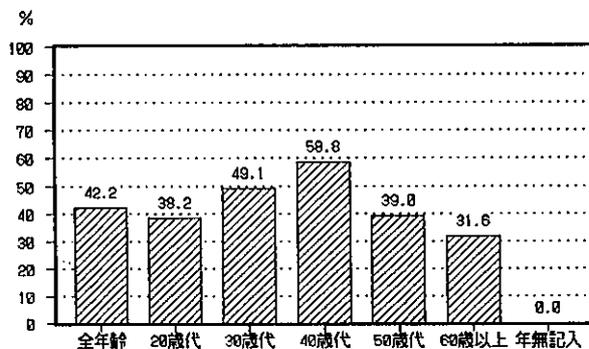
表Ⅲ-3、図Ⅲ-2の注

1. そういう〈気晴らし〉のようなことは春秋のお祭りや正月の行事で十分である。ふだんは〈くまめ〉に働くことが人の暮らし方であると思う。
2. 関心がない。
3. 関心は少しはあるが、時間の余裕がないため、とくに努めて学習・文化活動・スポーツをするための時間をとるうとは思わない。
4. 関心は少しはあるが、時間の余裕がない。しかし、何かの都合で時間ができれば、行ってみたいと思う時もある。
5. 関心は大いにあるが、時間の余裕がない。しかし、あきらめてはいない。
6. 関心はあるが、家族や近所の人たちの理解がないので、出かけられない。
7. 関心はあるが、託児所が用意されていないので、出かけられない。
8. 関心はあるが、友だちがない。
9. その他
10. 無記入

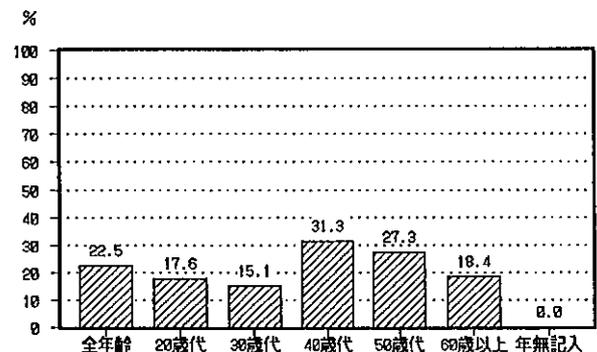


図Ⅲ-2 学習・文化活動・スポーツにとりくんでいない事情・理由 (年齢全体)

この場合、とりたてて学習・文化活動・スポーツにとりくむ必要をもたない層と必要とするが種々の事情のため現在はとりくむことができない層に大別される。表Ⅲ-3および図Ⅲ-2によれば、比率は後者の方が高い。とくに選択肢4「関心は少しはあるが、時間の余裕がない。しかし、何かの都合で時間ができれば、行ってみたいと思う時もある」の42.2%が最高である。これを年齢層毎に示したものが図Ⅲ-3である。40歳代58.8%、30歳代49.1%が高率である。これらの年齢層の時間的余裕の少なさがこうした数字に現れている。さらに、選択肢5「関心は大いにあるが、時間の余裕がない。しかし、あきらめてはいない」というより切実な層は22.5%であった。これについて年齢層毎に示したものが図Ⅲ-4である。同じく40歳代の31.3%がなかでも高率である。



図Ⅲ-3 「関心は少しはあるが、時間の余裕がない。しかし、何かの都合で時間ができれば、行ってみたいと思う時もある」 (年齢層)



図Ⅲ-4 「関心は大いにあるが、時間の余裕がない。しかし、あきらめてはいない」 (年齢層)

無視できない1割弱の「そういう気晴らしのようなことはお祭り・正月の行事で充分。ふだんはまめに働くことが人の暮らし方」の回答

一方、選択肢1の「そういう〈気晴らし〉のようなことは春秋にお祭りや正月の行事で充分である。ふだんはくまめに働くことが人の暮らし方である」の年齢全体での比率は9.2%であり、東讃データ7.8%とほぼ同様の比率の層が存在した。これを年齢層毎にみると、60歳以上21.1%が最高率であるが、20歳代5.9%、50歳代5.2%、40歳代3.8%である。30歳代は零である。

ただし、同選択肢に○で回答した33名のうち19名は選択肢3～9にも○で回答していた。したがって、「選択肢1のみ」あるいは「選択肢1と選択肢2」に○で回答した14名に限って分析する意味がある。この14名は、70歳以上6名、60歳～64歳4名、40歳代3名、65歳～69歳1名から成る。職業別では、農業5名、会社員、無職各3名、自営・サービス業、パート勤め、「その他」各1名であり、性別では男性7名、女性5名、性別無記入2名である。回答数が少ないため、断定はできないが、40歳以上の年齢層（50歳代を除く）にこうした暮らし方観が存在することは、地域における知や文化ないし生涯学習と、住民の精神構造の中に生き続ける自然観、社会規範全般との関わりのあり方を追究する上で無視できない重要な点である。こうした暮らし方観は、現在少なくない、地域の自然観、社会規範から離れた知識・技術や生涯学習のあり方を見直す視点と契機を含んでいるからである。

IV 学習・文化活動・スポーツへの要求

1 希望する学習・文化活動・スポーツの内容

問10ではなんとか時間をやりくりしてでも行ってみたい学習・文化活動・スポーツについて、記入数の制限なしにいくつでも回答できるようにした（複数回答）。その単純集計は末尾「資料」に示した。ここでは、その基本的な傾向および構造と特質について述べることにする。

一般的に「健康・安全指向」が著しく強い傾向

問10の選択肢のなかで比率が20%以上のものは、料理26.7%、「仕事をする中で健康を保つ法(腰痛・貧血等の予防や治療)」25.4%、英語24.7%、パソコン講習24.0%、健康体操23.0%、書道22.1%、歴史講座（世界史・日本史・郷土史等）20.1%であった。

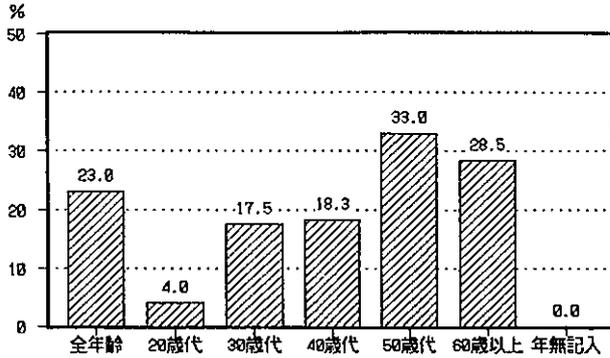
また、比率が10%以上で20%未満のものは、「景気の動き」19.4%、「政治・経済の国際的・国内的動き」18.5%、「食べ物の安全性（農薬・食品添加物等について）」18.1%、ワープロ講習17.2%、「年金や生活設計に関する知識」16.3%、「地域の暮らしのあり方を考える（高齢化社会における福祉等）」講座15.1%、華道14.5%、水泳13.4%、手芸11.6%、ゴルフ10.9%、「脳死や臓器移植の問題」10.9%、「日頃、自分が考えていることをお互いに話し合う会」10.7%、手話10.5%、茶道10.5%、盆栽10.0%、ゴミ問題10.2%、という状況であった。

その他の概況としては、民舞、詩吟、大正琴、陶芸、絵画等々の趣味や生きがいに関わる内容、および卓球、エアロビクス、バドミントン、バレーボール等のスポーツについての比率が、一部の例外を除き概ね0.5%から9.8%の幅で要求がみられる。これらは、一般的には公民館、民間教育文化産業が主催している内容のものが少なくない。

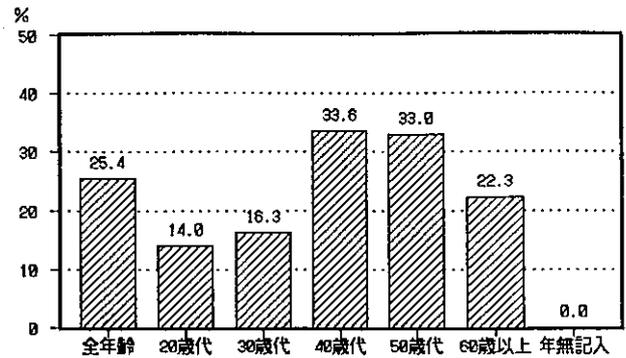
以上に拾い上げた内容のうち比率の高いものを通覧すると、東讃データと全く同様に生涯学習要求における健康・安全指向が非常に強いという特徴をみることができる。

この健康・安全志向に関わるもののうち、健康体操、「仕事をする中で健康を保つ法」および「食べ物の安全性」の場合を年齢層毎に示したものが各々図IV-1、図IV-2および図IV-3である。健康体操の

年齢層毎の比率は、30歳代から50歳代まで高齢化するにつれ上昇し、50歳代の33.0%が最高で、次に60歳代が28.5%である。「仕事の中で健康を保つ法」の年齢層毎の比率は、40歳代、50歳代が33%台で高く、60歳代が22.3%とあるように、概ね40歳以上の年齢層で要求が高い。「食べ物の安全性」の年齢層毎の比率は、60歳代22.3%を最高にしてほぼ年齢全体を通じて14.0%から22.3%の間の幅となっている。総じていうならば、とくに40歳以上の年齢層に強い健康志向、年齢全体を通じて強い安全志向をみることができる。



図IV-1 健康体操（年齢層）



図IV-2 仕事の中で健康を保つ法（年齢層）

表IV-1 「仕事をする中で健康を保つ法」（職業）

職業	農 業	漁 業	林 業	自 営 ・ 商 業	自 営 ・ 工 業	専 業 ・ 技 術 職	自 由 業	会 社 員	団 体 職 員	公 務 員	教 員	パ ー ト 勤 め	無 職	学 生	そ の 他	無 記 入	全 体
	17 25.8	4 80.0	0	18 37.5	3 23.1	3 10.3	3 50.0	40 29.2	1 11.1	13 31.7	1 10.0	8 27.6	17 15.0	1 16.7	8 24.2	3 50.0	140 25.4

「仕事の中で健康を保つ法」

このなかでも「仕事の中で健康を保つ法」の回答状況を職業別に示したものが表IV-1である。職種固有の疾病についてはこれらのデータでは不明である。またこの性別毎の比率をみると男性21.7%、女性27.5%と性別で大差はない。

「食べ物の安全性」と職業

また、「食べ物の安全性」についてさらに詳しくみてみたい。これを職業毎にみると、食材の生産に直接に携わる農業が15名、漁業が1名（林業は零名）である一方、これら以外の職業は84名である。この回答者100名に対する比率は農業と漁業が合わせて16.0%、これら以外の職業が84.0%と後者が高いが、各々の職業毎の比率は、前者が22.5%、後者17.5%と前者の方が高い結果となった。食べ物の安全性に関する学習要求は、東讃データと同様に、食材の生産に直接に携わる職業の方がやや強い模様である。また性別毎の比率は男性10.8%、女性25.5%と女性の方が高くなっている。

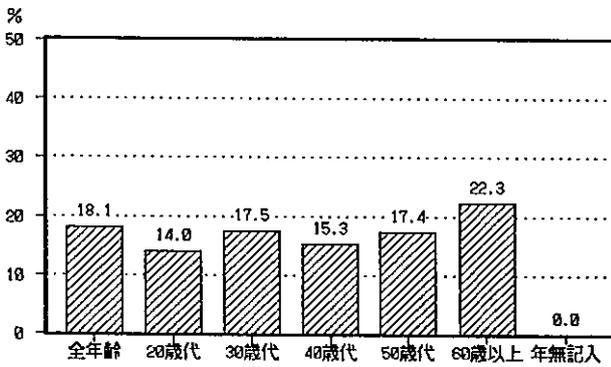
「食べ物の安全性」と「自然環境問題関心層」

また、この回答者100名のうち67.0%の67名が、問6の選択肢6「緑を保存して、安心して水や野菜・山の幸・海の幸を食べられる地域」に○で回答している。この67名は、問6の選択肢6の回答数286に対して23.4%である。これについて東讃データは25.2%であった。故に東讃データとほぼ同様に、観音寺市データでも、問6の選択肢6の回答者の約4分の1が「食べ物の安全性」に関する学習要求を持つことになる。さらには、「問4の選択肢3、問5の選択肢4または選択肢5、問6の選択肢6」の全てに○で回答した「自然環境問題関心層」92名のうち、「食べ物の安全性」に関する学習要求を持つ人は32名で、92名に対して34.8%の比率であった。これは、有効回答総数551に対するこの学習要求の比率18.1%よりも16.7ポイントも高い。以上

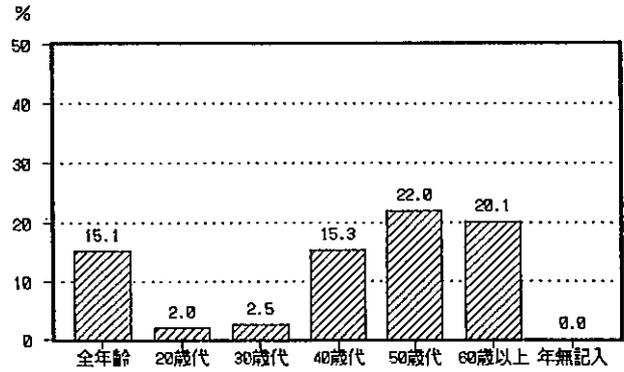
のことから考えると、東讃データと全く同様に、全体で2割に近い「食べ物の安全性」の学習要求は、やはり地域で自然環境に関心を持つ多くの層の存在を背景にして出されているものと考えられる。

地域における公共的な問題に関わる学習

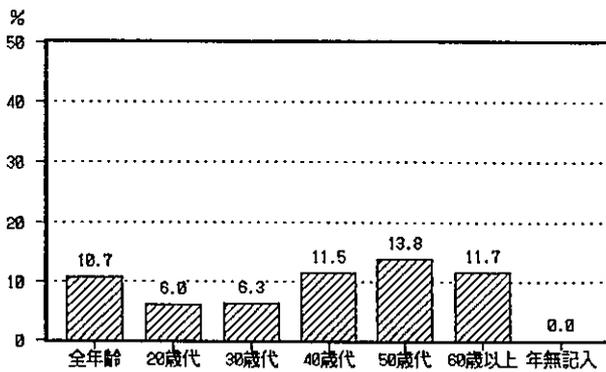
次に地域生活における公共的な問題に関わる学習要求をみることにする。なかでも比率の高い「地域の暮らしのあり方（高齢化社会における福祉等）講座」、「日頃、自分が考えていることをお互いに話し合う会」、ゴミ問題、「自然環境の保護と開発をめぐる課題」の年齢層毎の比率をグラフに示したものが各々図Ⅳ-4、図Ⅳ-5、図Ⅳ-6および図Ⅳ-7である。



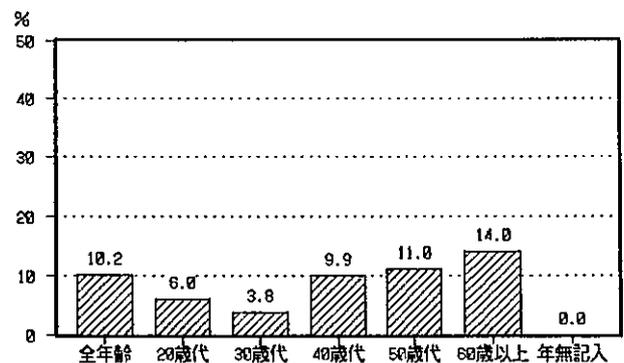
図Ⅳ-3 「食べ物の安全性」（年齢層）



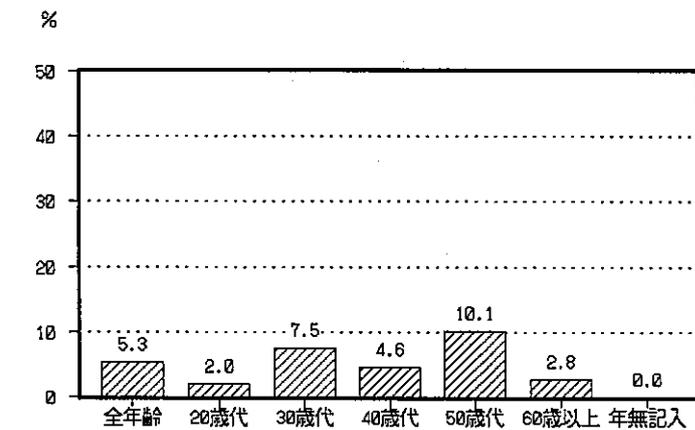
図Ⅳ-4 「地域の暮らしのあり方（高齢者福祉など）を考える講座」（年齢層）



図Ⅳ-5 「日頃、自分が考えていることをお互いに話し合う会」（年齢層）



図Ⅳ-6 ゴミ問題（年齢層）



図Ⅳ-7 「自然環境の保護と開発をめぐる課題」（年齢層）

「地域の暮らしのあり方を考える講座」は15.1%

「地域の暮らしのあり方を考える（高齢化社会における福祉等）講座」の場合は、年齢全体で15.1%であり、40歳以上の比率が高く、50歳代22.0%が最高となっている。この点は、問6（希望する将来の地域像）の回答状況で「福祉のゆきとどいた地域」を望む比率がとくに30歳以上の年齢層で高いこと、またこのこと以上に問5（暮らしのなかの不安）の回答状況で自らの老後の介護に関する不安をもつ比率が40歳以上で高いことと強い関連があるものと考えられる。

また、問5（不安）で選択肢2（自らの老後の介護に関する不安）に回答した209名のうち51名（24.4%）が、また、問6で選択肢8「福祉のゆきとどいた地域」に回答した248名のうち43名（17.3%）がこの学習要求を持っている。

「日頃の自らの考えをお互いに話し合う会」は10.7%

「日頃、自分が考えていることをお互いに話し合う会」を要求する比率は、年齢全体で10.7%であり、とくに40歳以上が11%台～13%台であるように若干高い。講義や説明を単に聴いて吸収するだけでなく、自らの日頃の考えや意見を発表し、意見交流を行うかたちの学習の場を求める層が約10%の比率で存在する。これについて東讃データ（年齢全体）8.7%よりも若干高い。この観音寺市調査回答者59名がどのような事柄を考えているのかを探る一つの指標として、問5（暮らしの中の不安）でのこの59名の回答状況をみると、選択肢1（過疎化）28.8%、選択肢2（自らの老後の介護）42.4%、選択肢4（山林・自然の破壊）32.2%、選択肢6（近所づきあいの悪化）47.5%、選択肢7（生活が不便）30.5%、選択肢8（学習・文化活動・スポーツの場が少ない）32.2%であり、有効回答総数551に対する各々の当該選択肢回答率である22.3%、37.9%、29.2%、24.3%、24.3%、27.4%よりも高い。この点に限った推測しかできないが、「日頃、自分が考えていることをお互いに話し合いたい」という人々は、日常の地域生活の中で問5の選択肢1、2、4、6、7、8に関して強い不安あるいは不満を抱いている模様である。

ゴミ問題は1割

ゴミ問題への学習要求は年齢全体で10.2%であり、年齢層毎の比率は、30歳代3.8%が最低ではあるが、20歳代が6.0%であり、40歳以上は年齢層が高くなるにつれて9.9%～14.0%の幅で少しずつ比率が高くなっている。

「自然環境と保護と開発をめぐる課題」

問4、問5および問6で自然環境の保護に関する関心が高かったため、選択肢60「自然環境と保護と開発をめぐる課題」の回答者を、比較的直接的に自然環境に接する職業である農・漁・林業とこれら以外の職業に分けてこれをみると、前者が2名（漁・林業は零で農業のみ）、後者が27名である。これを当該職業毎の比率で見ると、前者が2.8%、後者が5.6%であり、東讃データ（前者8.1%、後者6.8%）と異なり、後者が高率となっている。また、自然環境の問題関心を尋ねた問4の選択肢3、問5の選択肢4、問5の選択肢5、問6の選択肢6の各々に○で回答した者のうち、問10で「自然環境と開発をめぐる課題」の学習要求を持つ人の比率は、各々6.8%、11.2%、12.3%、6.6%である。したがって、日常的に自然環境について関心を持つ層の概ね6%台～12%台が、これについて学習要求を持っているといえることができる。さらに、「問4の選択肢3、問5の選択肢4または問5の選択肢5、問6の選択肢6」の全てに○で回答した「自然環境問題関心層」92名のうち、この学習要求を持つ人は10名で、その92名に対する比率は10.9%と相対的に高い。

自営・商業の半数が「自営商店の生き残る道（将来展望）」の学習要求あり

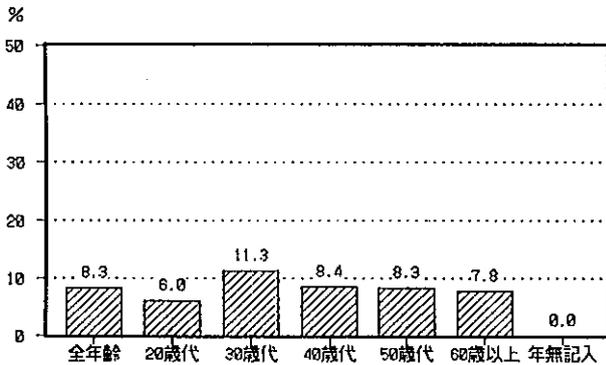
観音寺市は、冒頭に紹介した大藪和雄の研究によれば、県内比較で卸小売特化係数が高く「商業中心地域」として指摘されていることから、地域産業のうち「自営商店の生き残る道（将来展望）」の学習要求の比率を年齢層毎に示した図IV-8をみておきたい。これによると30歳代11.3%を最高にして概ね全年齢層で6%台～11%台、年齢全体で8.3%というように、年齢層で大きな差はみられない。こうした比率で自営商店の生き残り戦略を学びたいという層が存在する。これをさらに職業毎にみると、自営・商業50.0%、自営・サービス業27.6%が高率であり、地区毎でみると、観音寺12.3%、一ノ谷11.4%が高い。

農業従事者の3割が「農業の生き残る道（将来展望）」の学習要求あり

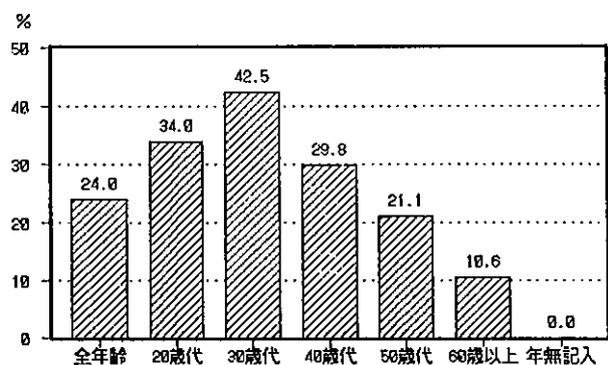
有効回答総数に対して7.6%の比率であった「農業の生き残る道（将来展望）」の学習希望者42名を職業毎にみると、農業20名、これ以外の職業22名であり、42名に対する比率は各々47.6%、52.4%と大差はないが、当該職業毎の比率は、各々30.3%、4.5%である。非常に厳しい条件におかれている農業の将来について、農業従事者の3割、その他の職業従事者の5%弱が学習要求を持っていることになる。また、これを地区毎にみた場合、観音寺が3.9%と最低率である一方、10%以上の地区が栗井18.5%、伊吹12.5%、高室12.3%、一ノ谷11.4%、柞田10.3%であった。

著しく強い「パソコン講習」への要求

最後に、学習要求の比率が20%以上であったもののうちとくに最近注目されるようになったパソコン講習の比率を年齢層毎、職業毎に示した各々図IV-9、表IV-2をみておきたい。年齢全体では24.0%であるが、30歳代42.5%、20歳代34.0%、40歳代29.8%の高率がとくに顕著である。とはいえ、50歳代21.1%、60歳代10.6%の数字も他の学習要求と比較して低いとはいえないことが注目される。年齢層を問わず、いわゆる「情報化」に対応する上でパソコンに関する学習を求める状況があるといえる。これを職業毎にみると、漁業が40.0%である他、会社員、団体職員、学生、公務員が30%台、パート勤めが27.6%であった。



図IV-8 「自営商店の生き残る道（将来展望）」（年齢層）



図IV-9 パソコン講習（年齢層）

表IV-2 パソコン講習（職業）

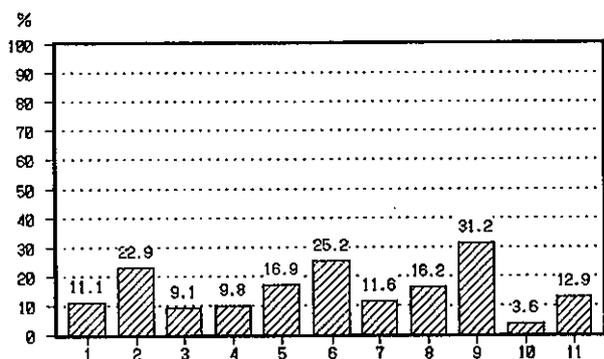
職業	農業	漁業	林業	自営・商業	自営・工業	卸売業	自由業	会社員	団体職員	公務員	教員	パート勤め	無職	学生	その他	無記入	全体
人数	6	2	0	12	1	4	1	53	3	13	2	8	15	2	10	0	132
比率 (%)	9.1	40.0	0.0	25.0	7.7	13.8	16.7	38.7	33.3	31.7	20.0	27.6	13.3	33.3	30.3	0.0	24.0

2 希望する時間帯

次に、学習・文化活動・スポーツにとりくむにあたって希望する時間帯についてみることにする。アンケートでは問11で3つまでたずねた（複数回答）。この設問に対する回答結果をまとめると表IV-3のようになり、年齢全体に限ってグラフに示すと図IV-10のようになる。

表IV-3 希望する時間帯

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
20歳代	3 6.0	10 20.0	5 10.0	3 6.0	14 28.0	12 24.0	2 4.0	8 16.0	23 46.0	1 2.0	3 6.0
30歳代	12 15.0	14 17.5	8 10.0	13 16.3	14 17.5	29 36.3	13 16.3	12 15.0	32 40.0	2 2.5	1 1.3
40歳代	16 12.2	31 23.7	12 9.2	14 10.7	28 21.4	47 35.9	14 10.7	17 13.0	43 32.8	4 3.1	6 4.6
50歳代	8 7.3	29 26.6	15 13.8	10 9.2	14 12.8	29 26.6	9 8.3	18 16.5	38 34.9	6 5.5	8 7.3
60歳以上	22 12.3	42 23.5	10 5.6	14 7.8	23 12.8	22 12.3	26 14.5	34 19.0	36 20.1	7 3.9	51 28.5
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
計	61 11.1	126 22.9	50 9.1	54 9.8	93 16.9	139 25.2	64 11.6	89 16.2	172 31.2	20 3.6	71 12.9



表IV-3、図IV-10の注

1. 日曜日午前
2. 日曜日午後
3. 日曜日夜 (7時～9時)
4. 土曜日午前
5. 土曜日午後
6. 土曜日夜 (7時～9時)
7. 平日午前
8. 平日午後
9. 平日夜 (7時～9時)
10. その他希望する季節や時間帯
11. 無記入

図IV-10 希望する時間帯 (年齢全体)

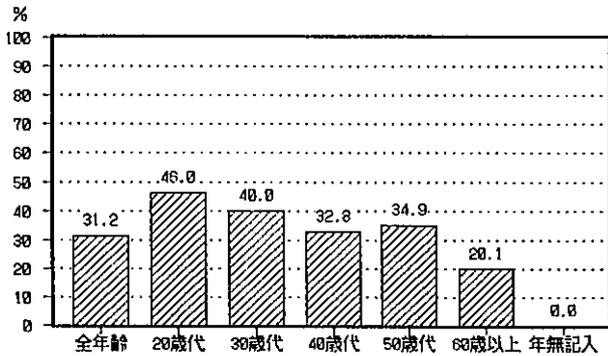
最高率は平日夜、第二位は土曜夜

平日夜31.2%が最高率であり、第二位は土曜夜25.2%、第三位は日曜午後22.9%であった。比率が高い順からみたこの順位は、東讃データと同一である。この三者を年齢層毎にグラフに示すと各々図IV-11、図IV-12、図IV-13のようになる。

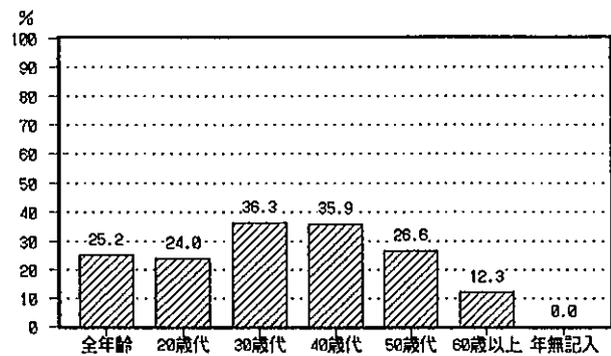
年齢層毎の比率は平日夜の場合、20歳代46.0%を最高にして、30歳代が40.0%、40歳代、50歳代が30%台となっている。昼間になんらかの仕事をしている人が多い層が夜間に時間をつくってとりくみたいという要求がこうした比率で存在する。この点は、問2に対する回答状況のうち平日の自由時間数（単数回答）の比率が、1～2時間が22.7%、2～3時間が26.0%、3～4時間が13.4%が高く、これら三者の計が62.1%になることと関連がある、と推測される。

日曜の前夜である土曜夜の場合も年齢層毎の比率は、昼間になんらかの仕事をしている人が多い20歳代～50歳代で24.0%～36.3%の幅で要求が存在する。

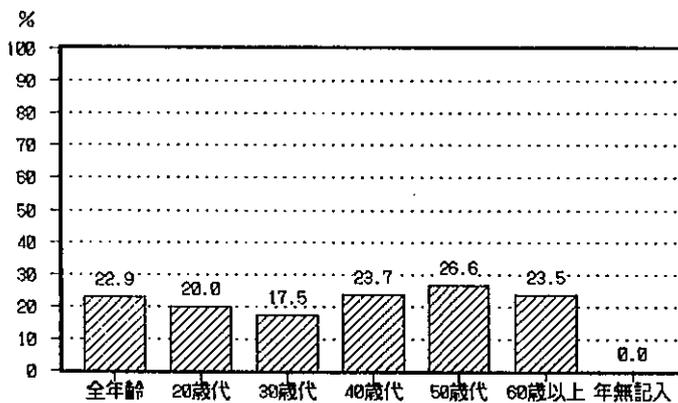
日曜午後の場合、年齢層毎の比率は20歳代、30歳代が比較的低い一方、40歳代から60歳代にかけての年齢層で比較的高い結果は東讃データと同様である。



図IV-11 平日夜（年齢層）



図IV-12 土曜日夜（年齢層）



図IV-13 日曜日午後（年齢層）

まとめ

以上に地域住民の生涯学習要求をとらえる上で、まず最初に理解しなくてはならない基本的な前提条件に関わる点のいくつかにしぼって、アンケート票に対する回答状況の基本的な構造と特質をみてきた。これらは、今後生涯学習要求の構造と特質を詳細に明らかにするための視点と方法論を得る重要な視角になると考えられる。

最後に、既述してきたような考察のうち、地域生涯学習要求の存在構造に関わる基本的な点をまとめることにしたい。

第一に、観音寺市住民の学習要求の最大の特徴は、健康志向および安全志向が著しく強いという点である。この点は東讃データと全く同様である。個人的な趣味、生きがいおよび各種スポーツにとりくみたいという要求は、書道（22.1%）等のごく一部の例外を別として、個別に概ね0.5%から14%台の比率の幅で存在し、なかでも5%台～9%台が多い。ところが、健康および暮らしのなかの安全・安心を確保するための学習に対する要求はこれらより多く、個別に各々約20%の比率で存在する点が注目されるのである。個人的な趣味・生きがいあるいは各種スポーツの場は、公民館および体育・スポーツ施設で設定されている。しかし既述したように、これらよりも学習内容の公共性が高いといえる健康および暮らしのなかの安全・安心を確保するための学習の方が、学習要求が強いことを示す結果が現れたのである。今後こうした学習の場をどのように保障すべきであるかという点について検討する必要があるように考えられる。

第二に、こうした学習要求の現れ方を探るため、問4、問5および問6に対する回答状況との関連をみたところ、地域の暮らしのなかで自然環境の恵みを大切に、気ごろの知れた人と安心して暮らすスタ

イルへの指向が強くみられた。ただし、既述してきたように、自然環境の保護に関する問題への関心は、観音寺市全体でみた場合、東讃データよりも若干（数ポイント分）低い模様である。

第三に、東讃データと全く同様に、第一の点と第二の点との関連が確かにみられたことである。第一のような学習要求が生まれる背景として、第二のような暮らしの指向が存在し、本稿では、とくに「食べ物の安全性」への学習要求がこれに相当することを述べた。

第四には、前述の第一の点とも関連するが、個人的な趣味・生きがいに関する学習要求の比率よりも「地域の暮らしのあり方を考える（高齢化社会における福祉等）講座」（年齢全体の学習要求の比率15.1%）にみられる公共的な問題（福祉問題を含む）に関する学習要求が高く、またゴミ問題（同10.2%）、「自営商店の生き残る道」（同8.3%）、「農業の生き残る道」（同7.6%）という地域づくりに関わる公共性の高い問題に関する学習要求も決して少なくないという点である。このこと背景として、前述の第三の点と同様に、地域における生活スタイルおよび地域課題との関連がみられる模様である。

第五には、現在、時間の余裕がないため学習・文化活動・スポーツにとりくめないが、あきらめてはいない層、あるいはこれほど切実ではないが、何かの都合で時間に余裕が生まれればとりくみたいとする層が、とりくんでない人のうち各々22.5%、42.2%の比率で存在する点である。また、「家族や周囲の理解がないため」あるいは「託児所がないため」に希望する学習・文化活動・スポーツにとりくむことのできない層が各々4.7%、2.5%の比率で存在する。このような声は、一般的にはともすれば顧みられない傾向があるが、住民が生涯学習にとりくむことのできる環境条件の整備が求められている。

第六に、問11でたずねた希望する時間帯の回答状況のなかで注目される結果は、東讃データと全く同様に休日ではなく平日の夜間が最多であり、日曜日の前夜である土曜日の夜間が第二に多かった点である。観音寺市および東讃地域に共通する結果であるため、なんらかの一般性のある要因が存在するのかどうか、という点についてさらに詳細に分析する必要がある。

第七には、以上に随時ふれてきた東讃データと同様の結果が現れたケースが少なくなかった点については、今後、生涯学習要求を調査研究する際に注目すべき観点である、と考えられる。

資 料

1 アンケート調査票と単純集計

*ただし、数字は人数（単位：人）であり、（ ）内に比率（%）を示した。比率（%）はとくにことわらない限り、有効回答数551に対する比率である。小数点以下第2の位を四捨五入。

*調査の趣旨およびアンケートへの協力への依頼を述べた文章および回答欄の（ ）は省略。

問1 あなたの住んでいる町名・ご職業・年齢・性別について次の中から選んで○をつけてください。

Iの3「回答者の属性」で既述

問2 あなたは、日頃の生活のなかで、仕事・家事や育児の他に、自分で自由に使える時間はだいたいどのくらいありますか。おおよその平均した時間数で、平日（ふだんの仕事・家事・育児等で忙しい日）と休日に分けて、あてはまるものに○をつけてください。

	(単数回答)	
	平日	休日
1. 1時間未満	52(9.4)	16(2.9)
2. 1時間以上～2時間未満	125(22.7)	35(6.4)
3. 2時間以上～3時間未満	143(26.0)	71(12.9)
4. 3時間以上～4時間未満	74(13.4)	85(15.4)
5. 4時間以上～5時間未満	44(8.0)	80(14.5)
6. 5時間以上～6時間未満	32(5.8)	65(11.8)
7. 6時間以上～7時間未満	14(2.5)	32(5.8)
8. 7時間以上	55(10.0)	135(24.5)
9. 無記入	12(2.2)	32(5.8)

問3 あなたは、自分で自由に使える時間にどのようなことをしてすごしていますか。平日と休日に分けて、下の欄から多いものを1つから3つまで選んでその番号を（ ）の中に記入してください。29（その他）のときは29と書いてその内容を書いてください。

	(複数回答)	
	平日	休日
1. テレビ・ラジオ	425(77.1)	291(52.8)
2. 有線テレビ	7(1.3)	3(0.5)
3. 自宅で読書	126(22.9)	64(11.6)
4. 図書館（室）で読書	4(0.7)	1(0.2)
5. 家族との団らん・子どもや孫の相手	121(22.0)	134(24.3)
6. お茶・お花などのおけいこごと	16(2.9)	10(1.8)
7. 地域の奉仕活動	12(2.2)	12(2.2)
8. 公民館の学級講座	10(1.8)	5(0.9)
9. 仲間・友人とのおつきあい	81(14.7)	95(17.2)
10. 仲間・友人との電話	39(7.1)	11(2.0)
11. ショッピング	42(7.6)	121(22.0)
12. 囲碁・将棋	7(1.3)	6(1.1)
13. スポーツ	40(7.3)	44(8.0)
14. 身の回りの整理・洗車	56(10.2)	89(16.2)
15. 喫茶（一人で）	10(1.8)	8(1.5)
16. 仕事や生活に役立つ知識・技術の習得	22(4.0)	19(3.4)
17. 音楽・映画やビデオの鑑賞	25(4.5)	22(4.0)

18. 園芸・庭いじり	85(15.4)	92(16.7)
19. パチンコ・マージャン・競艇	9(1.6)	21(3.8)
20. 俳句・短歌などの文化活動	6(1.1)	4(0.7)
21. なんとなくぼんやり過ごす	76(13.8)	65(11.8)
22. 疲れをいやすため休養する	89(16.2)	148(26.9)
23. 加入している団体(同好会・婦人会・ 老人会・青年会など)の会合や行事	35(6.4)	39(7.1)
24. 散歩	47(8.5)	42(7.6)
25. 釣り	15(2.7)	29(5.3)
26. カラオケ	9(1.6)	14(2.5)
27. レジャー施設で遊ぶ	1(0.2)	27(4.9)
28. ドライブ	10(1.8)	64(11.6)
29. その他	40(7.3)	45(8.2)
30. 無記入	4(0.7)	5(0.9)

「29. その他」の主要な記述内容(ことわりのない限り各1名)

○平日・休日の両方

・編物(2名) ・箏曲レッスン ・ダンス ・パッチワーク(2名) ・「趣味」 ・木工細工
・「明日のための涵養(休養とはちがう)」 ・手芸

○平日

・編物 ・手芸(2名) ・洋裁 ・紙粘土 ・パソコン ・尺八 ・人形づくり ・パッチワーク
・ペットの世話 ・日舞 ・表装

○休日

・吟詠 ・写真 ・温泉(2名) ・「実家の親の様子をみにいく」 ・工作
・「妻の実家に行ったり、外出」 ・「庭木の手入れ」 ・パソコン ・旅行(2名)
・原色おし花 ・ピアノ ・おどり ・キャンプ ・登山 ・木彫りや物作り ・「趣味」

問4 あなたは、いまの<むら>や<まち>で暮らしていて、どのようなことが生きがいであると感じていますか。
1つから3つまで選んで○をつけてください。

	(複数回答)
1. 住み慣れたところで気ごろの知れた人々のなかで暮らすこと	363(65.9)
2. 子や孫らの家族といっしょに暮らすこと	266(48.3)
3. 自然やきれいな空気・水に恵まれて暮らすこと	281(51.0)
4. いまの仕事にはりあいがある	126(22.9)
5. 地域の年中行事(お祭り・太鼓等)を支えていくこと	35(6.4)
6. 趣味	167(30.3)
7. 生きがいはない	34(6.2)
8. その他(なるべく具体的に書いてください)	24(4.4)
9. 無記入	3(0.5)

「8. その他」の主要な記述内容

・「社会奉仕」や「人の役に立つこと」(40歳代・女性)(30歳代・男性)
・家族との旅行(30歳代・男性)(50歳代・女性)
・「時々だけと孫たちに会えること」(50歳代・女性)
・「邦楽の会、お寺参り、四国巡拝など」(70歳以上・男性)
・「障害をもつわが子の自立を願って日々すごしている」(40歳代・女性)
・子育てや子の成長(30歳代・女性・4名)(40歳代・性別不明)
・「お金をためる」(20歳代・男性)
・「先祖伝来の土地で生活すること」(70歳以上・男性)

地域生涯学習要求の存在構造（その2）

- ・「家庭菜園ができる場がある敷地」（60歳～64歳・女性）
- ・「勉強していること」（20歳代・女性・学生）
- ・人との交流や学習（40歳代・女性）（50歳代・女性）
- ・「県内の四季の自然を見に行く楽しみ」（60～64歳・女性）

問5 あなたは、いま暮らしている<むら>や<まち>でこのままずっと暮らしていく上で何か不安なことがありますか。いくつでも○をつけてください。

	(複数回答)
1. 若い人がだんだん他の地域に移り住んで、<むら>や<まち>の人口が減っていくこと	123(22.3)
2. 年をとって一人住まいになると、からだが不自由になったり、病気になってしまったとき、介護してくれる人がいるかどうか不安	209(37.9)
3. 親が高齢になったとき、十分に介護できるかどうか不安	178(32.3)
4. 道路や住宅地が整備されて便利になったが、これにともない山林や自然がこわされていくことが不安	161(29.2)
5. 自然がこわされていくことによって、将来、水不足・土砂崩れなどの災いが起きないか不安	122(22.1)
6. だんだんと、となり近所づきあいがぎすぎすしていくのではないか不安	134(24.3)
7. 道路・商店街やレジャー施設などがなかなか便利にならない	134(24.3)
8. 学習・文化活動・スポーツをする場が少ない	151(27.4)
9. 何も不安はない	42(7.6)
10. その他（できればなるべく具体的に書いてください）	45(8.2)
11. 無記入	10(1.8)

「10. その他」の主要な記述内容

- ・「『5』で特に水不足ですが、毎年水不足になっております。このままだと人間が住んでいけるのだろうか」と不安になります」（50歳代・女性）
- ・近所でも子供の数が少ないこと（60～64歳・男性）（70歳以上・男性）
- ・食べ物に含まれている農薬・添加物が子どもたちの将来に及ぼす悪影響（70歳以上・女性）
- ・「車が多くて歩くのにつかれる」（70歳以上・性別不明）
- ・「もう少し年寄りが遊べるところがほしい。自分は毎日高松まで行っている」（60～64歳・性別不明）
- ・高齢社会への不安（30歳代・男性）（65～69歳・女性）（70歳以上・男性）（70歳以上・女性・2名）
- ・障害を持ったわが子の将来（親の高齢後や死亡後）（30歳代・女性）（40歳代・女性）
- ・香川県（とくに西讃地区）では「総合的産業」が少ないこと（60～64歳・男性）
- ・「全部遅れている」（40歳代・男性）
- ・「自治会館がないため、町内各団体の行事ができない」（65～69歳・男性・観音寺地区）
- ・「自然が少なくなり海は汚れ、道路をはだしで歩けなくなり、昔の景色が少なくなり、土着の者でもなにか他所に住んでいる気がしてきた」（70歳以上・男性）
- ・「モラル低下による生活廃棄物と環境破壊の問題」（40歳代・男性）
- ・「ゴミ（化学物質・自然にかえらない人工物）が多すぎる。食品パッケージ・プラスチック」（40歳代・女性）
- ・「自然の中までの車の乗り入れ及び観光化」（50歳代・男性）
- ・「子供が将来いじめにあわないか」（30歳代・女性）
- ・「市内を走るバスを1日午前・午後1回ずつでも、県でも市にも走らせるようにして、高齢者が無理に車の運転をしてショッピングや病院に行かなくてもすむような町でありたい」（60～64歳・女性）
- ・「歩道がないので高齢になったとき外出が不安」（60～64歳・女性・柞田地区）
- ・「将来観音寺市は過疎化が進むのではないかということ」（30歳代・女性）
- ・農業の後継者がいないこと（40歳代・女性）
- ・「住み始めて5年だが、土地のしきたりになじめないこと」（50歳代・女性）

問6 あなたは、いま暮らしている〈むら〉や〈まち〉が将来どのようなようになってほしいと思いますか。1つから2つまで選んで○をつけてください。

	(複数回答)
1. いまある農業・漁業・林業がしっかりした地域	51(9.3)
2. 工業を中心とした地域	15(2.7)
3. 商業を中心とした地域	33(6.0)
4. リゾート地・ゴルフ場のある観光の地域	9(1.6)
5. 農業・漁業・林業・商業・工業の調和のとれた地域	163(29.6)
6. 緑を保存して、安心して水や野菜・山の幸・海の幸を食べられる地域	286(51.9)
7. 住宅地を増やしてもっとにぎわいのある地域 (そのためには山林が減ってもやむをえない)	21(3.8)
8. 福祉のゆきとどいた地域	248(45.0)
9. わずらわしい村の古い慣習・しきたりや規制がなくなってほしい	105(19.1)
10. 文化的行事や催しが増えてほしい	83(15.1)
11. いまのままが一番よい (理由を書いてください)	8(1.5)
12. その他 (具体的に)	11(2.0)
13. 無記入	11(2.0)

「12. その他」の主要な記述内容

- ・「働く場所がもっと多いとよい」(40歳代・男性・農業)
- ・「産業誘致をして生産性のある活気のある町づくり。経済的に市民にも公共の財政にもうるおいがもてる様に。それにはやはり人口が増えていくことも大切。大学誘致の話もなくなり、非常に残念に思います」(30歳代・女性・会社員)
- ・「砂絵とコイン館はあるが、何か観光で人が集まるように発展してほしい」(70歳以上・女性・農業)
- ・「学生(短大・大学生)が居る街づくり」(40歳代・女性・自営・商業)
- ・「住宅地に工業がこないこと」(65~69歳・男性・農業)
- ・「文化や福祉の各施設に充実したバランスのとれた地域」(30歳代・女性・公務員)

「11. いまのままが一番よい」の理由

- ・「住みよいかから」(60~64歳・男性・自営・工業)
- ・「不自由なく調和のとれた街です」(70歳以上・性別不明・自営・工業)
- ・無記入(60~64歳・男性) (60~64歳・女性・2名) (70歳以上・女性・2名) (70歳以上・性別不明)

問7 あなたは、いま、なにか学習・文化活動・スポーツを行っていますか(一人で学習・文化活動・スポーツを行う場合を含みます)。どちらかに○をつけてください。

	(単数回答)
1. 行っている 186(33.8)	3. 無記入 5(0.9)
2. 行っていない 360(65.3)	

問8 前の問で〈行っている〉と答えた方にお聞きします。どのような学習・文化活動・スポーツを行っていますか。下の()のなかを書いて、その後ろに、行っているところ(場所・機関)を下の欄から選んで番号を書いてください(複数ある場合はすべて記入してください)。

(複数回答)

(例) (陶芸) (場所・機関=1)、(バレーボール) (場所・機関=4、6)

— 行っているところ(場所・機関)を選ぶ欄 —				
1. 公民館で	2. 図書館(室)で	3. 働く婦人の家で	4. スポーツ施設で	5. 自宅で
6. 加入している団体(同好会・婦人会・老人会・青年会・ボランティアのグループなど)で				
7. 民間のカルチャーセンターで		8. 大学開放講座で		9. 放送大学を利用して
10. 一人で 11. その他(内容をかっこの中に書いてください)				

○行っている内容

A 芸術関係

- ・書道 12(2.2) ・お花、華道 12(2.2) ・手芸、パッチワーク 9(1.6)
- ・園芸、庭木類、盆栽 7(1.3) ・編み物 5(1.9) ・習字 5(0.9)
- ・お茶、茶道 4(0.7) ・短歌 4(0.7) ・ちぎり絵 4(0.7) ・民舞 3(0.3)
- ・琴 3(0.5) ・詩吟 3(0.5) ・カラオケ 3(0.5) ・写真 2(0.4)
- ・水墨画 2(0.4) ・コーラス、歌 2(0.4) ・押し花 1(0.2) ・絵画 1(0.2)
- ・俳句 1(0.2) ・陶芸 1(0.2) ・日本舞踊 1(0.2) ・折り紙教室 1(0.2)
- ・俳画 1(0.2) ・南画 1(0.2) ・フラワー・アレンジメント 1(0.2)
- ・フォークダンス 1(0.2) ・朗読 1(0.2) ・獅子舞 1(0.2)
- ・和紙人形 1(0.2) ・木目込み人形 1(0.2) ・ロマンドール（人形） 1(0.2)
- ・奇術 1(0.2) ・折ハンカチ 1(0.2) ・ピアノ 1(0.2)
- ・詩、エッセイ創作 1(0.2) ・作詞、作曲 1(0.2) ・バンド活動 1(0.2)
- ・パン粘土 1(0.2) ・ステンドグラス 1(0.2) ・表装技術の会 1(0.2)
- ・桐細工 1(0.2) ・皮革工芸 1(0.2) ・くみひも 1(0.2) ・造形 1(0.2)

B スポーツあるいは身体を動かせること

- ・バレーボール、ミニソフトバレーボール 18(3.3) ・ゴルフ 13(2.4)
- ・水泳 10(1.8) ・バドミントン 9(1.6) ・散歩、ウォーキング 8(1.5)
- ・テニス 7(1.3) ・ジョギング 6(1.1) ・ソフトボール 6(1.1)
- ・ヨガ 3(0.5) ・体操、健康体操、ストレッチ体操 4(0.7)
- ・山歩き、登山 3(0.5) ・野球（コーチを含む） 2(0.4) ・ゲートボール 2(0.4)
- ・トレーニングジム、筋力トレーニング、ウエイトトレーニング 2(0.4)
- ・ウインドサーフィン 2(0.4) ・卓球 2(0.4) ・エアロビクス 2(0.4)
- ・陸上競技 1(0.2) ・自転車 1(0.2) ・スキー 1(0.2) ・ベタンク 1(0.2)
- ・柔道 1(0.2) ・剣道 1(0.2) ・操体法教室 1(0.2) ・太極拳 1(0.2)
- ・空手 1(0.2) ・拳法 1(0.2) ・居合道 1(0.2)
- ・スポーツハンティング 1(0.2) ・アスレックス 1(0.2)
- ・スポーツ一般 1(0.2) ・「審判員」 1(0.2)

C 語学

- ・英語、英会話 3(0.5)

D 生活・仕事に役立てるため

- ・資格取得のための学習 4(0.7) ・料理 2(0.4)
- ・仕事に役立つ知識・技能の習得 1(0.2)
- ・和裁 1(0.2) ・洋裁 1(0.2)
- ・「自然農法産物づくりと食事、語る会」 1(0.2) ・税務 1(0.2)

E 社会とのつながり

- ・高齢者福祉、デイサービス 1(0.2) ・手話 1(0.2) ・社会福祉問題 1(0.2)
- ・ふれあいサークル活動 1(0.2) ・青年会 1(0.2) ・老人会 1(0.2)
- ・寺の婦人部活動 1(0.2)

F その他

- ・読書 5(0.9) ・パソコン、コンピュータ 3(0.5) ・ワープロ 2(0.4)
- ・囲碁 3(0.5) ・通信教育 2(0.4) ・郷土史、郷土文化 2(0.4)
- ・放送大学の受講 1(0.2) ・カルチャーセンターの各種講座 1(0.2) ・将棋 2(0.4)
- ・聖書の研究 1(0.2) ・仏教の勉強 1(0.2) ・戦史研究 1(0.2)

- ・モラロジー（講習会等） 1(0.2) ・文化に関する学習会 1(0.2)
- ・明治青年大学講座 1(0.2) ・郷土文化大学 1(0.2) ・老人西大学 1(0.2)
- ・婦人講座 1(0.2) ・模型工作 1(0.2) ・日本風の会 1(0.2)
- ・バードウォッチ 1(0.2) ・「友の会」 1(0.2) ・一般教養 1(0.2)

○行っている場所・機関

1. 公民館で	57(10.3)	7. 民間のカルチャーセンターで	18(3.3)
2. 図書館（室）で	2(0.4)	8. 大学開放講座で	1(0.2)
3. 働く婦人の家で	5(0.9)	9. 放送大学を利用して	1(0.2)
4. スポーツ施設で	63(11.4)	10. 一人で	35(6.4)
5. 自宅で	41(7.4)	11. その他	47(8.5)
6. 加入している団体で	75(13.6)		

問9 問7で<行っていない>と答えた方にお聞きします。どのような事情や理由から学習・文化活動・スポーツを行っていないのですか。1つから2つまで選んで○をつけてください。

*（ ）内の比率（%）は問7で「行っていない」とした回答者数360に対する比率

（複数回答）

1. そういう<気晴らし>のようなことは春秋のお祭りや正月の行事で十分である。 ふだんは<まめ>に働くことが人の暮らし方であると思う	33(9.2)
2. 関心がない	44(12.2)
3. 関心は少しはあるが、時間の余裕がないため、とくに努めて学習・文化活動・スポーツをするための時間をつくろうとは思わない	50(13.9)
4. 関心は少しはあるが、時間の余裕がない。しかし、何かの都合で時間ができれば、行ってみたいと思う時もある	152(42.2)
5. 関心は大いにあるが、時間の余裕がない。しかし、あきらめてはいない	81(22.5)
6. 関心はあるが、家族や近所の人たちの理解がないので、出かけられない	17(4.7)
7. 関心はあるが、託児所が用意されていないので、出かけられない	9(2.5)
8. 関心はあるが、友だちがいない	50(13.9)
9. その他	35(9.7)
10. 無記入	4(1.1)

「9. その他」の主要な記述内容

- ・「病気療養のため」6名
- ・「身体が不自由なため」7名
- ・「高齢のため」3名
- ・「仕事・勤務の都合」2名（病院事務員、公務員）
- ・「経済的理由」1名
- ・「学習したいものや文化活動が近くにない」2名
- ・「関心はあるが、どこでどのようなことをしているかという情報が少ない」2名
- ・「気軽にいけるスポーツ施設がない」1名

問10 すべての方にお聞きします。なんとか時間をやりくりしてでも行ってみたい学習・文化活動・スポーツは、どんなことですか。とりくんでみたいものを下の欄から選び、番号のところにくつつでも○をつけてください。希望するものが下の欄にない場合は、79（その他）に希望内容を書いてください。とりくんでみたいと思わない人は80（とりくみたくないと思わない）に○をつけてください。

（複数回答）

<趣味や生きがい>

1. 日本舞踊	14(2.5)	3. 民舞	3(0.5)
2. 新舞踊	4(0.7)	4. 茶道	58(10.5)

地域生涯学習要求の存在構造 (その2)

5. 華道	80(14.5)	17. 水墨画	29(5.3)
6. 書道	122(22.1)	18. ちぎり絵	24(4.4)
7. 詩吟	14(2.5)	19. コーラス	18(3.3)
8. 写真	43(7.8)	20. 自分史	14(2.5)
9. 盆栽	55(10.0)	21. 木彫り	28(5.1)
10. スケアダンス	10(1.8)	22. 人形劇の鑑賞	4(0.7)
11. 尺八	4(0.7)	23. 草木染め	31(5.6)
12. 和紙人形づくり	17(3.1)	24. 太鼓	13(2.4)
13. 大正琴	23(4.2)	25. 小説・詩・短歌や俳句 などの文芸作品の鑑賞	28(5.1)
14. 手芸	64(11.6)	26. 小説・詩・短歌や俳句 などの文芸作品の創作	24(4.4)
15. 陶芸	43(7.8)		
16. 絵画	54(9.8)		
 <健康づくりのため>			
27. 健康体操	127(23.0)	36. 筋力トレーニング	54(9.8)
28. リズム体操	19(3.4)	37. ゲートボール	20(3.6)
29. 卓球	39(7.1)	38. 野球	10(1.8)
30. バドミントン	39(7.1)	39. 水泳	74(13.4)
31. ソフトボール	28(5.1)	40. サッカー	5(0.9)
32. バレーボール	29(5.3)	41. ゴルフ	60(10.9)
33. バスケットボール	9(1.6)	42. 仕事をする中で健康を 保つ法 (腰痛・貧血など を防いだり治したりする法)	140(25.4)
34. ヨーガ	29(5.3)		
35. エアロビクス	21(3.8)		
 <教養を深めるため>			
43. 歴史講座 (世界史・日本史・郷土史など)	111(20.1)	44. 伝統芸能	32(5.8)
 <外国語講座>			
45. 中国語	35(6.4)	50. フランス語	7(1.3)
46. ハンゲル語	10(1.8)	51. ドイツ語	5(0.9)
47. ポルトガル語	3(0.5)	52. イラン語	0(0.0)
48. タガログ語	0(0.0)	53. その他	5(0.9)
49. 英語	136(24.7)		
 <生活に役立てるため>			
54. 着付け	50(9.1)	61. 水不足にならないための課題	34(6.2)
55. 洋裁	29(5.3)	62. 食べ物の安全性 (農薬・食品添加物等について)	100(18.1)
56. 料理	147(26.7)	63. ゴミ問題	56(10.2)
57. 年金や生活設計に関する知識	90(16.3)	64. 対人関係 (問題)	46(8.3)
58. 消費者保護に関する知識	17(3.1)	65. 子ども・青年の教育問題	41(7.4)
59. 地域の暮らしのあり方を考える (高齢化社会における福祉など) 講座	83(15.1)	66. 日頃、自分が考えていること をお互いに話し合う会	59(10.7)
60. 自然環境の保護と開発をめぐる 課題	29(5.3)		

<仕事や職業に役立てるため>

67. 農業の生き残る道 (将来展望)	42(7.6)	70. 林業の生き残る道(将来展望)	2(0.4)
68. 漁業の生き残る道 (将来展望)	4(0.7)	71. 工場の生き残る道(将来展望)	17(3.1)
69. 漁業技術の研究 (魚群探知機や漁法の開発など)	1(0.2)	72. 自営商店の生き残る道 (将来展望)	46(8.3)
		73. 景気の動き	107(19.4)

<社会問題を深くとらえるため>

74. 政治・経済の国際的・国内的動き	102(18.5)	75. 脳死や臓器移植の問題	60(10.9)
---------------------	-----------	----------------	----------

<その他>

76. 手話	58(10.5)	79. その他	26(4.7)
77. ワープロ講習	95(17.2)	80. とりくみたいと思わない	28(5.1)
78. パソコン講習	132(24.0)	81. 無記入	19(3.4)

◎ 「53. その他の外国語」

・スペイン語 ・エスペラント語 ・ロシア語 ・日本語 ・無記入 (各1名)

◎ 「79. その他」 (断わりのない限り各1名)

・楽器演奏 (2名) ・ピアノ ・吹奏楽演奏 ・琴 ・社交ダンス ・カラオケ (2名)
 ・花づくり (2名) ・園芸・家庭菜園 (2名) ・庭木の手入れ、造園 ・登山 ・健康マラソン
 ・サイクリング ・ハイキング (2名) ・ウィンドサーフィン ・ヨット
 ・「肩こりを治す方法など」 ・「心の勉強」 ・囲碁 ・将棋 ・編物 ・点字 ・近代科学
 ・パソコン (4名) ・「サークル活動」

問11 学習・文化活動・スポーツの講座(実技を含む)を受講する場合、どの時間帯を希望しますか。下から3つ選んで○をつけてください。

			(複数回答)
1. 日曜日午前	61(11.1)	7. 平日午前	64(11.6)
2. 日曜日午後	126(22.9)	8. 平日午後	89(16.2)
3. 日曜日夜 (7時～9時)	50(9.1)	9. 平日夜 (7時～9時)	172(31.2)
4. 土曜日午前	54(9.8)	10. その他希望する季節や 時間帯	20(3.6)
5. 土曜日午後	93(16.9)	11. 無記入	71(12.9)
6. 土曜日夜 (7時～9時)	139(25.2)		

「10. その他希望する季節や時間帯」の主要な記述内容

- ・「あつくなくて、さむくもない時」 (50歳代・男性・自営・商業)
- ・「店の定休日の午前中9:00～11:00」 (40歳代・女性・自営・商業)
- ・「勤務の性格上、自分の自由時間内」 (40歳代・男性・公務員)
- ・「祝日、連休日及びその前日の夜」 (40歳代・性別不明・会社員)
- ・「仕事休日の午前」 (30歳代・男性・会社員)
- ・「秋、日曜日午後」 (60～64歳・男性・農業)
- ・「11月～3月頃」 (60～64歳・女性・農業)

2 補足集計表

以下の補足集計表における数字は上段が人数（単位：人）、下段が有効回答数 551に対する比率（％）である。ただし、年齢層毎に示した比率（％）は各年齢層毎の有効回答数に対する比率であり、性別毎に示した比率（％）は各性別毎の有効回答数に対する比率である。小数点以下第2の位を四捨五入した。

回答者の年齢層と職業（問1・男性・単数回答）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計
20歳代	0 0.0	1 4.3	0 0.0	2 8.7	0 0.0	2 8.7	0 0.0	11 47.8	0 0.0	3 13.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	23 100.0
30歳代	2 7.7	0 0.0	0 0.0	4 15.4	0 0.0	1 3.8	0 0.0	12 46.2	1 3.8	4 15.4	1 3.8	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 100.0
40歳代	5 12.2	0 0.0	0 0.0	2 4.9	1 2.4	1 2.4	0 0.0	21 51.2	1 2.4	5 12.2	1 2.4	0 0.0	1 2.4	0 0.0	2 4.9	1 2.4	41 100.0
50歳代	2 5.1	1 2.6	0 0.0	4 10.3	1 2.6	4 10.3	0 0.0	18 46.2	4 10.3	3 7.7	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	39 100.0
60歳以上	18 24.3	0 0.0	0 0.0	9 12.2	5 6.8	3 4.1	2 2.7	5 6.8	0 0.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	25 33.8	0 0.0	4 5.4	0 0.0	74 100.0
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	27 13.3	2 1.0	0 0.0	21 10.3	7 3.4	11 5.4	2 1.0	67 33.0	6 3.0	16 7.9	5 2.5	2 1.0	26 12.8	3 1.5	7 3.4	1 0.5	203 100.0

回答者の年齢層と職業（問1・女性・単数回答）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計
20歳代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 42.3	1 3.8	1 3.8	2 7.7	2 7.7	3 11.5	1 3.8	5 19.2	0 0.0	26 100.0
30歳代	2 4.4	1 2.2	0 0.0	2 4.4	1 2.2	1 2.2	1 2.2	9 20.0	1 2.2	5 11.1	1 2.2	5 11.1	11 24.4	1 2.2	4 8.9	0 0.0	45 100.0
40歳代	3 4.9	0 0.0	0 0.0	7 11.5	1 1.6	4 6.6	0 0.0	17 27.9	0 0.0	5 8.2	2 3.3	10 16.4	4 6.6	0 0.0	8 13.1	0 0.0	61 100.0
50歳代	3 8.1	0 0.0	0 0.0	2 5.4	1 2.7	5 13.5	1 2.7	10 27.0	0 0.0	3 8.1	0 0.0	1 2.7	6 16.2	0 0.0	4 10.8	1 2.7	37 100.0
60歳以上	16 21.1	1 1.3	0 0.0	6 7.9	0 0.0	1 1.3	0 0.0	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.9	41 53.9	0 0.0	3 3.9	3 3.9	76 100.0
年齢無記入	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0
計	25 10.1	2 0.8	0 0.0	17 6.9	3 1.2	11 4.5	2 0.8	49 19.3	2 0.8	14 5.7	5 2.0	21 8.5	65 26.3	2 0.8	25 10.1	4 1.6	247 100.0

*ただし、性別無記入101名は省いた。

注

1. 農業 2. 漁業 3. 林業 4. 自営・商業 5. 自営・工業 6. 自営・サービス業
 7. 自由業 8. 会社員 9. 団体職員 10. 公務員 11. 教員 12. パート勤め 13. 無職
 14. 学生 15. その他 16. 無記入

自由時間の過ごし方（問3・平日・複数回答）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
20歳代	39 78.0	0 0.0	12 24.0	0 0.0	9 18.0	3 6.0	0 0.0	0 0.0	12 24.0	14 28.0	1 2.0	0 0.0	5 10.0	3 6.0	0 0.0	2 4.0	6 12.0	0 0.0	2 4.0	0 0.0
30歳代	70 87.5	0 0.0	30 37.5	1 1.3	27 33.8	3 3.8	0 0.0	0 0.0	11 13.8	8 10.0	11 13.8	0 0.0	7 8.8	9 11.3	1 1.3	3 3.8	4 5.0	2 2.5	2 2.5	1 1.3
40歳代	106 80.9	0 0.0	26 19.8	0 0.0	34 26.0	5 3.8	1 0.8	3 2.3	19 14.5	8 6.1	4 3.1	2 1.5	14 10.7	20 15.3	3 2.3	5 3.8	8 6.1	8 6.1	3 2.3	1 0.8
50歳代	88 80.7	4 3.7	19 17.4	0 0.0	20 18.3	1 0.9	3 2.8	1 0.9	15 13.8	6 5.5	14 12.8	0 0.0	8 7.3	12 11.0	3 2.8	6 5.5	4 3.7	21 19.3	2 1.8	2 1.8
60歳以上	120 67.0	3 1.7	39 21.8	3 1.7	30 16.8	4 2.2	8 4.5	6 3.4	23 12.8	3 1.7	12 6.7	5 2.8	6 3.4	12 6.7	3 1.7	6 3.4	3 1.7	53 29.6	0 0.0	2 1.1
年齢無記入	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
計	425 77.1	7 1.3	126 22.9	4 0.7	121 22.0	16 2.9	12 2.2	10 1.8	81 14.7	39 7.1	42 7.6	7 1.3	40 7.3	56 10.2	10 1.8	22 4.0	25 4.5	85 15.4	9 1.6	6 1.1

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
20歳代	13 26.0	11 22.0	1 2.0	3 6.0	2 4.0	0 0.0	0 0.0	3 6.0	1 2.0	0 0.0
30歳代	13 16.3	11 13.8	2 2.5	1 1.3	3 3.8	0 0.0	0 0.0	2 2.5	4 5.0	0 0.0
40歳代	25 19.1	21 16.0	9 6.9	8 6.1	3 2.3	1 0.8	0 0.0	1 0.8	9 6.9	1 0.8
50歳代	12 11.0	19 17.4	6 5.5	7 6.4	2 1.8	3 2.8	0 0.0	2 1.8	7 6.4	0 0.0
60歳以上	13 7.3	26 14.5	17 9.5	28 15.6	5 2.8	5 2.8	1 0.6	2 1.1	19 10.6	3 1.7
年齢無記入	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	76 13.8	89 16.2	35 6.4	47 8.5	15 2.7	9 1.6	1 0.2	10 1.8	40 7.3	4 0.7

注

1. テレビ・ラジオ
2. 有線テレビ
3. 自宅で読書
4. 図書館（室）で読書
5. 家族との団らん・子どもや孫の相手
6. お茶・お花などのおけいごと
7. 地域の奉仕活動
8. 公民館の学級講座
9. 仲間・友人とのおつきあい
10. 仲間・友人との電話
11. ショッピング
12. 囲碁・将棋
13. スポーツ
14. 身の回りの整理・洗車
15. 喫茶（一人で）
16. 仕事や生活に役立つ知識・技能の習得
17. 音楽・映画やビデオの鑑賞
18. 園芸・庭いじり
19. パチンコ・マージャン・競艇
20. 俳句・短歌などの文化活動
21. なんとなくぼんやり過ごす
22. 疲れをいやすため休養する
23. 加入している団体（同好会・婦人会・老人会・青年会など）の会合や行事
24. 散歩
25. 釣り
26. カラオケ
27. レジャー施設で遊ぶ
28. ドライブ
29. その他
30. 無記入

地域生涯学習要求の存在構造（その2）

自由時間の過ごし方（問3・休日・複数回答）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
20歳代	25 50.0	0 0.0	5 10.0	0 0.0	10 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	24 48.0	1 2.0	12 24.0	0 0.0	7 14.0	11 22.0	0 0.0	2 4.0	3 6.0	0 0.0	3 6.0	0 0.0
30歳代	44 55.0	0 0.0	11 13.8	0 0.0	38 47.5	2 2.5	0 0.0	0 0.0	12 15.0	0 0.0	27 33.8	0 0.0	8 10.0	9 11.3	0 0.0	1 1.3	4 5.0	3 3.8	5 6.3	0 0.0
40歳代	71 54.2	0 0.0	14 10.7	1 0.8	33 25.2	7 5.3	2 1.5	0 0.0	17 13.0	1 0.8	38 29.0	0 0.0	11 8.4	33 25.2	4 3.1	7 5.3	7 5.3	22 16.8	8 6.1	0 0.0
50歳代	57 52.3	1 0.9	10 9.2	0 0.0	19 17.4	0 0.0	4 3.7	0 0.0	17 15.6	2 1.8	20 18.3	1 0.9	12 11.0	16 14.7	3 2.8	4 3.7	2 1.8	27 24.8	5 4.6	1 0.9
60歳以上	92 51.4	2 1.1	24 13.4	0 0.0	33 18.4	1 0.6	6 3.4	5 2.8	24 13.4	7 3.9	24 13.4	5 2.8	6 3.4	20 11.2	1 0.6	5 2.8	6 3.4	40 22.3	0 0.0	3 1.7
年齢無記入	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	291 52.8	3 0.5	64 11.6	1 0.2	134 24.3	10 1.8	12 2.2	5 0.9	95 17.2	11 2.0	121 22.0	6 1.1	44 8.0	89 16.2	8 1.5	19 3.4	22 4.0	92 16.7	21 3.8	4 0.7

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
20歳代	7 14.0	16 32.0	2 4.0	2 4.0	2 4.0	2 4.0	1 2.0	9 18.0	2 4.0	0 0.0
30歳代	9 11.3	22 27.5	3 3.8	1 1.3	5 6.3	0 0.0	12 15.0	12 15.0	5 6.3	0 0.0
40歳代	19 14.5	35 26.7	12 9.2	6 4.6	10 7.6	1 0.8	5 3.8	11 8.4	6 4.6	1 0.8
50歳代	18 16.5	35 32.1	6 5.5	4 3.7	6 5.5	1 0.9	3 2.8	17 15.6	7 6.4	0 0.0
60歳以上	12 6.7	38 21.2	16 8.9	29 16.2	6 3.4	10 5.6	6 3.4	15 8.4	25 14.0	4 2.2
年齢無記入	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	65 11.8	148 26.9	39 7.1	42 7.6	29 5.3	14 2.5	27 4.9	64 11.6	45 8.2	5 0.9

注

1. テレビ・ラジオ
2. 有線テレビ
3. 自宅で読書
4. 図書館（室）で読書
5. 家族との団らん・子どもや孫の相手
6. お茶・お花などのおけいごと
7. 地域の奉仕活動
8. 公民館の学級講座
9. 仲間・友人とのおつきあい
10. 仲間・友人との電話
11. ショッピング
12. 囲碁・将棋
13. スポーツ
14. 身の回りの整理・洗車
15. 喫茶（一人で）
16. 仕事や生活に役立つ知識・技能の習得
17. 音楽・映画やビデオの鑑賞
18. 園芸・庭いじり
19. パチンコ・マージャン・競艇
20. 俳句・短歌などの文化活動
21. なんとなくぼんやり過ごす
22. 疲れをいやすため休養する
23. 加入している団体（同好会・婦人会・老人会・青年会など）の会合や行事
24. 散歩
25. 釣り
26. カラオケ
27. レジャー施設で遊ぶ
28. ドライブ
29. その他
30. 無記入

どのような学習・文化活動・スポーツを望むか (問10) その1 (複数回答)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
20歳代	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 18.0	10 20.0	8 16.0	0 0.0	4 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.0	6 12.0	9 18.0	0 0.0	0 0.0	2 4.0	0 0.0
30歳代	1 1.3	0 0.0	0 0.0	10 12.5	11 13.8	14 17.5	0 0.0	7 8.8	1 1.3	2 2.5	1 1.3	2 2.5	1 1.3	12 15.0	6 7.5	9 11.3	4 5.0	2 2.5	3 3.8	0 0.0
40歳代	4 3.1	1 0.8	0 0.0	20 15.3	24 18.3	40 30.5	2 1.5	6 4.6	8 6.1	4 3.1	1 0.8	3 2.3	5 3.8	18 13.7	12 9.2	13 9.9	7 5.3	7 5.3	1 0.8	2 1.5
50歳代	3 2.8	2 1.8	2 1.8	9 8.3	14 12.8	18 16.5	5 4.6	9 8.3	16 14.7	2 1.8	1 0.9	5 4.6	7 6.4	10 9.2	10 9.2	9 8.3	5 4.6	5 4.6	6 5.5	3 2.8
60歳以上	6 3.4	1 0.6	1 0.6	10 5.6	21 11.7	42 23.5	7 3.9	17 9.5	30 16.8	2 1.1	1 0.6	7 3.9	10 5.6	22 12.3	9 5.0	14 7.8	13 7.3	10 5.6	6 3.4	9 5.0
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	14 2.5	4 0.7	3 0.5	58 10.5	80 14.5	122 22.1	14 2.5	43 7.8	55 10.0	10 1.8	4 0.7	17 3.1	23 4.2	64 11.6	43 7.8	54 9.8	29 5.3	24 4.4	18 3.3	14 2.5

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
20歳代	1 2.0	0 0.0	1 2.0	2 4.0	1 2.0	0 0.0	2 4.0	1 2.0	1 2.0	6 12.0	4 8.0	6 12.0	0 0.0	1 2.0	6 12.0	9 18.0	0 0.0	4 8.0	10 20.0	1 2.0
30歳代	1 1.3	0 0.0	0 0.0	2 2.5	1 1.3	1 1.3	14 17.5	5 6.3	6 7.5	15 18.8	8 10.0	5 6.3	5 6.3	8 10.0	8 10.0	15 18.8	0 0.0	2 2.5	27 33.8	2 2.5
40歳代	9 6.9	1 0.8	8 6.1	3 2.3	7 5.3	6 4.6	24 18.3	6 4.6	14 10.7	11 8.4	9 6.9	11 8.4	3 2.3	15 11.5	4 3.1	18 13.7	0 0.0	0 0.0	17 13.0	1 0.8
50歳代	8 7.3	0 0.0	12 11.0	4 3.7	5 4.6	7 6.4	36 33.0	6 5.5	11 10.1	7 6.4	3 2.8	6 5.5	1 0.9	4 3.7	3 2.8	8 7.3	2 1.8	3 2.8	11 10.1	1 0.9
60歳以上	9 5.0	3 1.7	10 5.6	2 1.1	14 7.8	10 5.6	51 28.5	1 0.6	7 3.9	0 0.0	4 2.2	1 0.6	0 0.0	1 0.6	0 0.0	4 2.2	18 10.1	1 0.6	9 5.0	0 0.0
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	28 5.1	4 0.7	31 5.6	13 2.4	28 5.1	24 4.4	127 23.0	19 3.4	39 7.1	39 7.1	28 5.1	29 5.3	9 1.6	29 5.3	21 3.8	54 9.8	20 3.6	10 1.8	74 13.4	5 0.9

	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
20歳代	10 20.0	7 14.0	5 10.0	2 4.0	2 4.0	1 2.0	1 2.0	0 0.0	21 42.0	2 4.0	0 0.0	0 0.0	4 8.0	9 18.0	2 4.0	14 28.0	5 10.0	2 4.0	1 2.0	1 2.0
30歳代	14 17.5	13 16.3	14 17.5	4 5.0	7 8.8	1 1.3	0 0.0	0 0.0	28 35.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 15.0	8 10.0	28 35.0	16 20.0	2 2.5	2 2.5	6 7.5
40歳代	11 8.4	44 33.6	29 22.1	8 6.1	8 6.1	4 3.1	0 0.0	0 0.0	44 33.6	2 1.5	1 0.8	0 0.0	0 0.0	12 9.2	9 6.9	42 32.1	22 16.8	4 3.1	20 15.3	6 4.6
50歳代	19 17.4	36 33.0	19 17.4	10 9.2	8 7.3	4 3.7	2 1.8	0 0.0	21 19.3	1 0.9	1 0.9	0 0.0	0 0.0	9 8.3	4 3.7	25 22.9	22 20.2	1 0.9	24 22.0	11 10.1
60歳以上	6 3.4	40 22.3	44 24.6	8 4.5	10 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	22 12.3	1 0.6	3 1.7	0 0.0	1 0.6	8 4.5	6 3.4	38 21.2	25 14.0	8 4.5	36 20.1	5 2.8
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	60 10.9	140 25.4	111 20.1	32 5.8	35 6.4	10 1.8	3 0.5	0 0.0	136 24.7	7 1.3	5 0.9	0 0.0	5 0.9	50 9.1	29 5.3	147 26.7	90 16.3	17 3.1	83 15.1	29 5.3

地域生涯学習要求の存在構造（その2）

どのような学習・文化活動・スポーツを望むか（問10） その2（複数回答）

	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81
20歳代	2 4.0	7 14.0	3 6.0	5 10.0	6 12.0	3 6.0	3 6.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	3 6.0	3 6.0	2 4.0	6 12.0	3 6.0	5 10.0	9 18.0	17 34.0	2 4.0	3 6.0	0 0.0
30歳代	2 2.5	14 17.5	3 3.8	4 5.0	10 12.5	5 6.3	5 6.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	9 11.3	19 23.8	11 13.8	10 12.5	10 12.5	18 22.5	34 42.5	3 3.8	1 1.3	1 1.3
40歳代	8 6.1	20 15.3	13 9.9	13 9.9	12 9.2	15 11.5	9 6.9	1 0.8	1 0.8	0 0.0	6 4.6	11 8.4	34 26.0	30 22.9	15 11.5	25 19.1	35 26.7	39 29.8	9 6.9	3 2.3	1 0.8
50歳代	12 11.0	19 17.4	12 11.0	8 7.3	3 2.8	15 13.8	12 11.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9	4 3.7	9 8.3	30 27.5	23 21.1	18 16.5	13 11.9	18 16.5	23 21.1	3 2.8	3 2.8	2 1.8
60歳以上	10 5.6	40 22.3	25 14.0	16 8.9	10 5.6	21 11.7	13 7.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.7	14 7.8	22 12.3	32 17.9	14 7.8	5 2.8	15 8.4	19 10.6	9 5.0	17 9.5	14 7.8
年齢無記入	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
計	34 6.2	100 18.1	56 10.2	46 8.3	41 7.4	59 10.7	42 7.6	4 0.7	1 0.2	2 0.4	17 3.1	46 8.3	107 19.4	102 18.5	60 10.9	58 10.5	95 17.2	132 24.0	26 4.7	28 5.1	19 3.4

どのような学習・文化活動・スポーツを望むか（問10）の注

＜趣味や生きがい＞

1. 日本舞踊 2. 新舞踊 3. 民謡 4. 茶道 5. 華道 6. 書道 7. 詩吟 8. 写真
 9. 盆栽 10. スケアダンス 11. 尺八 12. 和紙人形づくり 13. 大正琴 14. 手芸 15. 陶芸
 16. 絵画 17. 水墨画 18. ちぎり絵 19. コーラス 20. 自分史 21. 木彫り 22. 人形劇の鑑賞
 23. 草木染め 24. 太鼓 25. 小説・詩・短歌や俳句などの文芸作品の鑑賞 26. 小説・詩・短歌や俳句などの文芸作品の創作

＜健康づくりのため＞

27. 健康体操 28. リズム体操 29. 卓球 30. バドミントン 31. ソフトボール 32. バレーボール
 33. バスケットボール 34. ヨーガ 35. エアロビクス 36. 筋力トレーニング 37. ゲートボール
 38. 野球 39. 水泳 40. サッカー 41. ゴルフ 42. 仕事をする中で健康を保つ法（腰痛・貧血などを防いだり治したりする法）

＜教養を深めるため＞

43. 歴史講座（世界史・日本史・郷土史など） 44. 伝統芸能

＜外国語講座＞

45. 中国語 46. ハンゲル語 47. ポルトガル語 48. タガログ語 49. 英語 50. フランス語
 51. ドイツ語 52. イラン語 53. その他（ ）語

＜生活に役立てるため＞

54. 着付け 55. 洋裁 56. 料理 57. 年金や生活設計に関する知識 58. 消費者保護に関する知識
 59. 地域の暮らしのあり方を考える（高齢化社会における福祉など）講座 60. 自然環境の保護と開発をめぐる課題
 61. 水不足にならないための課題 62. 食べ物の安全性（農薬・食品添加物等について） 63. ゴミ問題
 64. 対人関係（問題） 65. 子ども・青年の教育問題 66. 日頃、自分が考えていることをお互いに話し合う会

＜仕事や職業に役立てるため＞

67. 農業の生き残る道（将来展望） 68. 漁業の生き残る道（将来展望） 69. 漁業技術の研究（魚群探知機や漁法の開発など）
 70. 林業の生き残る道（将来展望） 71. 工場の生き残る道（将来展望） 72. 自営商店の生き残る道（将来展望）
 73. 景気の動き

＜社会問題を深くとらえるために＞

74. 政治・経済の国際的・国内的動き 75. 脳死や臓器移植の問題

＜その他＞

76. 手話 77. ワープロ講習 78. パソコン講習 79. その他 80. とりくみたいと思わない
 81. 無記入

(付記)

本調査研究は、1995年度香川大学教育研究特別経費を受けて実施したものである。同年度末にアンケート結果の単純集計および年齢層毎による集計を元にして考察したものを、「地域住民の生涯学習要求の構造と特質（その2）－香川県観音寺市の概況－」（同年度教育研究特別経費研究成果報告書『大学に対する地域住民の生涯学習要求に関する調査研究（その2）』香川大学生涯学習教育研究センター、1996年3月）にまとめた。本稿は、さらに職業毎による集計および、アンケート設問間のクロス集計結果を加えて分析し、前稿をやや大幅に加筆修正したものである。

本調査研究を実施するにあたって、アンケートにご協力くださった回答者の方々、および本調査の趣旨に理解を示し、ご協力くださった観音寺市教育委員会事務局に心よりお礼を申し上げます。また、昨年度の東讃地域調査と同様に本調査においても種々の相談に懇切に応じてくださった大藪和雄先生（香川大学経済学部）および佐藤幹子先生（香川大学経済学部）に心よりお礼を申し上げます。